

授業科目名： 英語学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富山 晴仁
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：言語実践 (linguistic practice) として相互行為 (interaction) に焦点を当てた新しい英語学。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際社会や日常生活で英語がどのように運用されているか理解している。</li> <li>○英語の種類や、その歴史的、社会的背景を理解している。</li> <li>○英語の文法や音韻を機能的側面から理解している。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>リング・フランカとされる英語であるが、決して単一のものではなく、地域や場面、発話する人の属性によって多種多様なものである。その多様さは国際社会から日常の生活に至るまで見て取ることができる。本講義では、現代社会で使用されている英語の実態を踏まえながら、歴史、語用、文法、音韻などの側面から考察していくものである。</p> <p>また、ディプロマポリシーの「自国及び他の国々の文化に関する知識」および「英語などの外国語の知識・技能を有し、それを活用することにより世界をめぐる情報を正しく理解し分析する能力や国際社会でのマナーに従いコミュニケーションを行う力」を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>__授業のねらい、進め方、評価方法を説明する。</li> <li>__英語学という学問領域について概略を説明する。</li> </ul> <p>第2回：新しい英語学の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>__身近にある「英語」から</li> <li>__ネイティブスピーカーの英語から国際共通語としての英語へ</li> <li>__言語構造の研究からコミュニケーションの研究へ</li> </ul> <p>第3回：様々な英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>__3種類の言葉</li> <li>__3種類の英語</li> <li>__World Englishes</li> <li>__シンガポールの英語</li> </ul>			

## 第4回：母語英語の特徴（イギリス英語、オーストラリア英語）

- \_\_イギリス英語の歴史
- \_\_現代イギリス英語の特徴
- \_\_オーストラリア英語

## 第5回：母語英語の特徴（アメリカ英語、カナダ英語）

- \_\_アメリカ英語の歴史
- \_\_アメリカ英語の特徴
- \_\_カナダ英語

## 第6回：英語と社会的属性

- \_\_地域
- \_\_社会階層
- \_\_ジェンダー

## 第7回：英語の発話行為

- \_\_語用論とは何か
- \_\_お礼
- \_\_詫び
- \_\_依頼

## 第8回：英語のポライトネスと談話分析（1）

- \_\_ポライトネス
- \_\_日米の依頼行為に見えるポライトネス
- \_\_談話分析

## 第9回：英語のポライトネスと談話分析（2）

- \_\_あいづちの日米比較
- \_\_課題設定小集団討議の日米比較

## 第10回：文化とは何か

- \_\_文化モデル
- \_\_事例研究

## 第11回：英語の非言語コミュニケーション

- \_\_非言語コミュニケーションとは何か
- \_\_近接空間学
- \_\_パラ言語学
- \_\_身体動作が句

## 第12回：.語彙からみる英語らしさ

- \_\_歴史からみる
- \_\_認知からみる
- \_\_婉曲語法と政治的正しさ

第13回：文法からみる英語らしさ

\_\_文法関係（主語）

\_\_品詞（動詞・名詞）

\_\_構文と事態把握

第14回：音韻からみる英語らしさ

\_\_音声学と音韻論

\_\_英語の音声

\_\_英語のアクセント、イントネーション、リズム

\_\_国際共通語としての英語の音韻論

第15回：まとめ、定期試験

テキスト

平賀正子（著）『ベーシック新しい英語学概論』（2016、ひつじ書房）

参考書・参考資料等

安藤貞雄・澤田治美（著）『英語学入門』（2001、開拓社）

学生に対する評価

小テスト：40点、期末テスト：60点

授業科目名： 英米文学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部（田久保）曜子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>&lt;テーマ&gt;</p> <p>英語文学を通じて言語としての英語や英語文化圏の社会に対する理解を深める。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>1) 英米文化圏の主要な作家や作品についての基礎的知識を持ち、説明することができる。</p> <p>2) 時代や社会と文学との関係、あるいは文学の存在意義について理解し、それについての考えを述べることができる。</p> <p>3) 英語による表現を味わいながら読む体験を通じて「文学作品を鑑賞する」ことができる。</p>			
授業の概要			
<p>ノーベル賞作家カズオ・イシグロの作品や、19世紀イギリスの代表的児童文学作品 <i>Alice's Adventures in Wonderland</i> の一部等を、背景となる社会や文化を考えながら読むことを通じて、文学とは何であり、何のためにあるのかを考える授業としたい。また英語圏文化や英語圏文学を専門的に学ぶために必要だと思われる英米文学史や文学批評の用語や内容を押さえていくとともに、作品の中で使われている英語表現にも注意を払っていく。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
英米文学を学ぶ上で大切なことは何か			
第2回：時空間を超えた作家、ウィリアム・シェイクスピア (1)			
イギリス・ルネッサンスについて（歴史背景、エリザベス朝の演劇等）			
第3回：時空間を超えた作家、ウィリアム・シェイクスピア (2)			
代表作と名台詞、後世への影響、様々なアダプテーション			
第4回：読み継がれる児童文学作品、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(1)			
作家と時代背景（19世紀イギリス）			
第5回：読み継がれる児童文学作品、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(2)			
『不思議の国のアリス』を英語で読んでみる。			
第6回：様々な読み方を知る シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1)			
作家と作品について			
第7回：様々な読み方を知る シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(2)			

<p>『ジェイン・エア』の様々な読まれ方について</p> <p>第8回：時代の中の文学作品 (1) フィッツ・ジェラルド『グレート・ギャツビー』 時代背景を知り、作品の一部を読み、味わう。</p> <p>第9回：時代の中の文学作品 (2) ジョージ・オーウェル『1984年』 時代背景を知り、作品の一部を読み、味わう。</p> <p>第10回：ノーベル文学賞受賞作家 カズオ・イシグロ(1) 受賞を巡って (英字新聞、インタビュー) 作家と作品の特質</p> <p>第11回：ノーベル文学賞受賞作家 カズオ・イシグロ (2) 『日の名残り』の一部を読む。</p> <p>第12回：短編を読む (1) レイモンド・カーヴァー“Chef's House” 冒頭部分を解説する。</p> <p>第13回：短編を読む (2) レイモンド・カーヴァー“Chef's House” 人物関係を把握する。</p> <p>第14回：短編を読む (3) レイモンド・カーヴァー“Chef's House” テーマを考える。</p> <p>第15回：まとめと総括 定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>○川崎寿彦『イギリス文学史入門』（研究者）</p> <p>○江藤秀一『イギリス文化・文学への誘い』（開拓社）</p> <p>○山川瑞明『アメリカ文学史要説』（南雲堂）</p> <p>○本多英明『楽しく読める英米児童文学』（ミネルヴァ書房）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>リフレクション・シート（30%）、課題（20%）、定期試験（50%）</p>

授業科目名： Speaking	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： フェネリー マーク
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【テーマ】様々なジャンルや話題についてやり取りを続けるために、必要な語彙や表現、また方略的能力等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルや話題について、2分程度の会話の継続ができる。</li> <li>・様々なジャンルや話題について、2分程度の会話を聞き、理解できる。</li> <li>・目的や場面に応じてやり取りができる。</li> <li>・複数の領域・技能を統合した言語活動をとおして必要な情報交換ができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は基本的に英語で実施し、学生による発表ややり取りを中心に進めていきます。英検の面接も意識します。タスクを通して、目的に向かって場面や状況等に応じて英語を聞いた話ししたりする言語活動が中心となります</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction 自己紹介・積極的に尋ねたり・答えたりしよう</p> <p>第2回：基本的なコミュニケーションスキル 目的や場面、状況に応じたコミュニケーションの在り方及びEye contact、発音、イントネーション、shadowingなどの基本的なスキル</p> <p>第3回：自分のことについて語ろう Mind Mapの効果的な使い方</p> <p>第4回：会話の始まりと終わり 初めて会う人とのやり取り</p> <p>第5回：会話の中のShadowing Shadowingで興味を示そう</p> <p>第6回：留学生との実践 日本のことを紹介しましょう（絵本活用）</p> <p>第7回：姉妹大学との交流 実践的なコミュニケーション体験</p>			

第8回：英検模擬面接 I

ペアでの面接 物語を作ろう

第9回：コミュニケーションにおける（間）の埋め方

会話の継続を目指して

第10回：テーマ別会話練習

2分間chat

第11回：興味を示す

食べ物や服をテーマに（絵本活用）

第12回：英検模擬面接 II

ペアでの面接 物語を作ろう

第13回：テーマ別会話練習

音楽2分間chat

第14回：テーマ別会話練習

free-time 2分間chat

第15回：英語によるプレゼンテーションと面接

発表とやり取りの力を伸ばそう

テキスト

Cambridge University Press 「Nice Talking With You 1」

参考書・参考資料等

Eric Carle の絵本等

学生に対する評価

授業の中のタスク・パフォーマンス評価（45%）、単語・語句・表現テスト（25%）、課題と準備（30%）

授業科目名： Discussion&Debate	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ラックストン ロバート
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「テーマ」様々なトピックについて話し合い、討論することで意見交換をしながら、英語コミュニケーション能力を高める。</p> <p>「到達目標」ディスカッションと討論の両方の形式で自分の意見を表現することに自信を持てるようになる。また、他の意見に耳を傾け、それに賛成または反対することも学びながら、論理的な思考を養い、相互理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>このクラスでは、第一印象、現代国家での交通、言語学習、キャリアの見つけ方など、学生に関心事であるさまざまな問題について話し合い、討論する。学生は、自分にとって重要なトピックについて自分の意見を述べることを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：クラスの目標と概要について 自分自身について話す。</p> <p>第2回：第一印象について 初めて会うとき、人々は他人についてどのように判断するのか？話し合い、討論する。</p> <p>第3回：輸送について 徳島はより良い輸送システムを持つべきだろうか？人口の減少を考えると、これは可能なのか？話し合い、討論する。</p> <p>第4回：言語学習について 最近では電子翻訳が広く利用可能になった。他の言語を学ぶことはまだ重要だろうか？話し合い、討論する。</p> <p>第5回：キャリアについて 良い仕事とは何だろうか？人々はどのようにキャリアを選ぶべきなのか？仕事で重要なことは何か？（給与対労働条件）話し合い、討論する。</p> <p>第6回：結婚について 人々が結婚する平均年齢は上昇しているかどうか？なぜ若者は晩婚を選択するのだろうか？良いパートナーとは何だろうか？話し合い、討論する。</p> <p>第7回：レビューとインタビュー 全てのトピックを見直し、個別面談を行う。</p>			

## 第8回：友達について

なぜ友達を持つことがとても重要なのか？話し合い、討論する。

## 第9回：食物について

誰もが植物ベースの食物をもっと食べた方が世界にとって良いだろうか？私たちが食べるものは世界にどのように影響するのか？話し合い、討論する。

## 第10回：サイバーいじめについて

ソーシャルネットワークはいじめの性質をどのように変えたのか？ソーシャルネットワークの良い点と悪い点は何か？話し合い、討論する。

## 第11回：高齢化社会について

日本はますます多くなる高齢者をどのようにケアするのか？日本は今「核家族社会」だろうか？話し合い、討論する。

## 第12回：教育について

小学校の英語の授業で絵本を使うことは英語への興味を高める良い方法でしょうか？話し合い、討論する。また、目的や場面・状況に応じた言語活動を習得する。

## 第13回：グローバリズムについて

国際社会とは何か？日本は変化しているか？話し合い、討論し、第二言語の習得の意義や重要性を理解する。

## 第14回：環境について

環境はどのように変化しているか？環境を支援するために、集団的および個別的に何ができるだろうか？話し合い、討論する。

## 第15回：レビューとインタビュー

全てのトピックを見直し、個別面談を行う。

## テキスト

必要に応じて配布する。

## 参考書・参考資料等

Lubetsky, Michael. Discover Debate. トラベルマン (1999/12/6)

## 学生に対する評価:

授業態度と英語の個別面談（インタビュー）により評価する。

授業科目名： 国際文化入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷口（山口）薫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>テーマ：諸地域・諸外国に目を向け、世界の様々な地域問題・多文化共生の問題について理解する糸口をつかむ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 様々な地域について、その地域的な特色や文化的多様性を理解する。また諸地域・諸文化間相互の関連性を理解する。</p> <p>2. グローバリゼーションや南北格差、貧困問題など、国際共生をめぐる今日の問題について基礎的な知識を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、文化の多様性および文化相互の関連性を理解し柔軟な思考力や国際的視野を持つための基礎を築いていきます。文化とは何か、国際社会をかたちづくる諸外国にはどのような社会や価値観の下で暮らす人々がいるのかといったことに立ち返り、私達が普段見落としがちな諸地域・諸外国に対する興味関心を喚起し、異文化交流の重要性と、異文化コミュニケーションの現状や課題について理解しましょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 講義の概要、授業の進め方、成績評価などについて</p> <p>第2回：「文化」とは何か 文化の定義やその概念上の特徴について説明します。異文化コミュニケーションの重要性と必要なステップについて、異文化間ギャップと世代間ギャップの類似点を手がかりに説明します。</p> <p>第3回：国際的とは—「グローバリゼーション」について 現代のグローバル社会の特徴について説明します。異文化コミュニケーションの重要性と必要なステップについて、私たちに身近なスマホと希少鉱物の原産地について取り上げながら、考えを深めます。</p> <p>第4回：アフリカ地域について（1） アフリカ地域の全般的特徴や問題点について概観し学びます。多民族多言語国家が直面する問題点について理解を深めます。</p> <p>第5回：アフリカ地域について（2）</p>			

具体的な国やトピック（例：エチオピアのコーヒー産業、構造的な貿易ハンデ）を通してアフリカ地域について理解を深めます。

第6回：アフリカ地域について (3)

具体的な国やトピック（例：引き続き、エチオピアのコーヒー産業について、また地理的特徴・文化遺産など）を通してアフリカ地域について理解を深めます。

第7回：アフリカ地域について (4)

具体的な国やトピック（例：南アフリカの経済成長）を取り上げてアフリカ地域について理解を深めます。現在もイギリス連邦加盟国である南アフリカの人種間対立や経済発展について説明します。

第8回：アジア地域について (1)

アジア地域の全般的特徴や問題点について概観し学びます。多民族多言語国家が直面する問題点について理解を深めます。

第9回：アジア地域について (2)

アジア地域について具体的な国やトピック（例：東南アジアの出稼ぎ労働者について、フィリピンの言語・教育政策など）を取り上げてアジア地域について理解を深めます。

第10回：アジア地域について (3)

アジア地域について具体的な国やトピック（例：スリランカについて）を取り上げます。かつてイギリスの植民地であった歴史が現在のスリランカに影響しているか理解を深めます。

第11回：アジア地域について (4)

アジア地域について具体的な国やトピック（例：中国内モンゴル自治区）を取り上げます。中国がもつ多民族多言語国家としての課題について

第12回：南アメリカ地域について (1)

南アメリカ地域の全般的特徴や問題点について概観し学びます。多民族多言語国家が直面する問題点について理解を深めます。

第13回：南アメリカ地域について (2)

具体的な国やトピック（例：グアテマラのくらし）を取り上げて南アメリカ地域について理解を深めます。グアテマラについては、ゲスト・スピーカーを迎えて、インディオの民族衣装など、実際の生活を体感しましょう。

第14回：南アメリカ地域について (3)

具体的な国やトピック（例：多文化国家ブラジルの経済成長と貧困）を取り上げて南アメリカ地域について理解を深めます。

第15回：まとめと総括

講義を振り返り、学びの意義を再確認して、筆記試験を行います。

テキスト

教科書は使用せず、テーマごとにプリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ・松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店（2011）
- ・漆原・藤塚・松山・大西編『図説世界の地域問題100』ナカニシヤ出版（2022）
- ・映画『おいしいコーヒーの真実』など。ほかは授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加（10%）、授業中の小レポート（40%）および筆記試験（50%）などにより総合的に評価

授業科目名： イギリス文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西 記代子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ			
・イギリス文化の様相理解と発展			
到達目標			
・イギリスの文化や歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、現代イギリス社会の具体像をつかみ、現代社会の諸問題を多角的に見ることができる			
・イギリス文化を学ぶなかで、自文化や他文化を相対的に見る力を養い、異文化理解の姿勢を身につける			
授業の概要			
グループワークを通じてテーマへの理解を深め、イギリス社会や文化について基礎的な知識を獲得すると共に、英語発祥の地イギリスおよび言語としての英語についての関心と探求心を喚起することを目指す。また、時事ニュースに触れることで、基礎知識への発展的考察力をつける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：イギリスとは何か			
第3回：英語の成り立ちと第二言語としての広がり、その習得について			
第4回：イギリスの地理と自然環境			
第5回：イギリスの歴史と文学			
第6回：イギリスの宗教と生活			
第7回：イギリスの音楽			
第8回：中間のまとめ、ジャーナル・レビュー			
第9回：イギリスの映像文化とメディア			
第10回：イギリスの美術			
第11回：イギリスのスポーツ身体文化			
第12回：イギリスの教育と社会階層			
第13回：イギリスの王室と政治			
第14回：世界の中のイギリス			
第15回：定期試験、ジャーナル・レビュー			

テキスト

イギリス文化入門 [新版] (下楠昌哉ほか、三修社、2023/5/15)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内での発表・参加度・レポート (50%) と試験 (50%) を総合評価

授業科目名： 教科指導法 I (国語)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 涼子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ・国語 (書写を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>・テーマ</p> <p>言葉を大切にし、対話や表現することを通して自律的に学ぶ児童を育成する国語科学習指導</p> <p>・到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容、並びに全体構造を理解して、身に付けさせたい言葉の力について説明することができる。</li> <li>2 [知識及び技能] 及び [思考力・判断力・表現力等] の学習内容である「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」について理解し、説明することができる。また、国語科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業構想に活用することができる。</li> <li>3 評価規準をもとに、国語科の学習評価の考え方を理解して説明することができる。</li> <li>4 学習指導案の構成と内容を理解し、具体的な授業を想定した単元を構想し、学習指導案を作成することができる。</li> <li>5 国語科におけるその実践研究の動向を知るとともに、教科書教材を中心に教材研究を行い模擬授業の構想に活用することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領について理解し説明できるようにするとともに、小学校現場での主体的・対話的で深い学びの実現に向け、模擬授業による学び合いを多く取り入れる。具体的には小学校教員の実務経験を活かして、児童の実態把握の方法をはじめ、教材研究の仕方、教材・教具の工夫、学習指導案の書き方や効果的な展開の仕方、指導技術等について、教材研究・模擬授業を通して学習指導法の理解と基本的な実践力の定着を図る。また、指導案作成にあたっては、情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業構想に取り入れるよう指導する。</p> <p>講義後、毎回模擬授業評価をはじめとする学修記録を書くことにより、自己評価、相互評価による学びの振り返りを取り入れ、国語科指導への関心を深め、楽しく学び合いのある授業づくりへの意欲を高める。</p> <p>この授業で伸ばすことを目的とする力は、学位授与方針のうち次の2つの力と対応している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育・保育に関する豊かな専門知識と技術を身に付け、子どもを理解し、実践的に指導する力</li> <li>2 教育者・保育者として学び続け、他者との協働によって課題を解決するために情報収集し分析する力</li> </ol>			

模擬授業を実践するにあたっては、①語彙の質と量を高めること、②豊かな言語感覚を育むこと、③必要感のある効果的な共有の場を設けること、④「考えを形成する」過程を大切にすること、⑤日常の読書活動につなげること、⑥書写指導との関連を意識すること、等を念頭に置いて取り組む。

#### 授業計画

##### 第1回：ガイダンス

学習指導要領の解説を通して、本授業のねらいを明らかにし、模擬授業の計画を立てる。

##### 第2回：主体的・対話的な学びに向けて

主体的・対話的な学びをうながす国語科学習指導の在り方と学習評価、情報機器及び教材の効果的な活用方法について説明する。

##### 第3回：国語科学習指導案の見方と書き方

学習指導要領に基づいた国語科学習指導案の見方と書き方、情報機器及び教材の効果的な活用方法の指導案への反映の仕方を説明する。

##### 第4回：模擬授業オリエンテーション

指導者の模擬授業をもとに話し合うとともに、模擬授業の観点を確認する。

##### 第5回：模擬授業1 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

Aグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第6回：模擬授業2 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

Bグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第7回：模擬授業3 [知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項

Cグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第8回：模擬授業4 [知識及び技能] (3) 我が国の言葉の特徴や使い方に関する事項

Dグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第9回：模擬授業5 [知識及び技能] (3) 我が国の言葉の特徴や使い方に関する事項

Eグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

書写指導、読書指導について、具体的な実践例を知る。

##### 第10回：模擬授業6 [思考力・判断力・表現力等] の内容 A話すこと・聞くこと

Fグループの模擬授業をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第11回：模擬授業7 [思考力・判断力・表現力等] の内容 C読むこと①

Gグループの模擬授業 文学的文章指導（物語）をもとに意見交換し、相互評価をする。

##### 第12回：模擬授業8 [思考力・判断力・表現力等] の内容 C読むこと②

Hグループの模擬授業 文学的文章指導（詩、古典）をもとに意見交換し相互評価をする。

##### 第13回：模擬授業9 [思考力・判断力・表現力等] の内容 C読むこと③

<p>Iグループの模擬授業 説明的文章指導をもとに意見交換し、相互評価をする。</p> <p>第14回：模擬授業10 [思考力・判断力・表現力等]の内容 B書くこと</p> <p>Jグループの模擬授業をもとに意見交換、相互評価をする。</p> <p>第15回：本講義のまとめと振り返り（定期試験は実施しない）</p> <p>模擬授業を通して学び合ったことを振り返り、自己評価をする。</p> <p><b>【授業実施方法】</b></p> <p>本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。</p>								
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東洋館出版社「文部科学省小学校新学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」 ISBN978-4-491-03462-1</li> <li>・ 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」 ISBN978-4-491-03460-7</li> <li>・ 自作プリント、各種指導案を配付</li> </ul>								
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光村図書出版株式会社「小学校国語 教科書 1年～6年」</li> <li>・ 光村図書出版株式会社「小学校国語 学習指導書 1年～6年」</li> <li>・ 文部科学省 国立教育政策所教育課程研究センター 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語科(2020年)</li> <li>・ 必要な資料は適宜配付</li> </ul>								
<p>学生に対する評価</p> <p>①～③により、総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>① 模擬授業者・協力者には模擬授業評価</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(参観者は授業構想、計画、準備での協力度、児童役や協議への参加態度)</td> </tr> <tr> <td>② 毎回の授業評価等の「学修記録」の内容</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>③ 指導案作成能力、課題レポートの内容</td> <td>30%</td> </tr> </table>	① 模擬授業者・協力者には模擬授業評価	30%	(参観者は授業構想、計画、準備での協力度、児童役や協議への参加態度)		② 毎回の授業評価等の「学修記録」の内容	40%	③ 指導案作成能力、課題レポートの内容	30%
① 模擬授業者・協力者には模擬授業評価	30%							
(参観者は授業構想、計画、準備での協力度、児童役や協議への参加態度)								
② 毎回の授業評価等の「学修記録」の内容	40%							
③ 指導案作成能力、課題レポートの内容	30%							

授業科目名： 教科指導法 I (社会)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱口 恒一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ・社会		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 社会科学習指導に関する授業構想力や授業実践力の育成			
【到達目標】 学習指導案の作成や模擬授業を通して、			
1. 小学校社会科の目標及び内容を理解し、説明することができる。			
2. 小学校社会科に関する基本的な知識を習得し、説明することができる。			
3. 小学校社会科指導上の今日的課題について理解し、説明することができる。			
4. 学習指導案の作成の仕方や授業準備の仕方を身に付けることができる。			
授業の概要			
<p>学習指導要領を吟味し、小学校社会科の目標、内容および内容の取り扱いの基本を理解し、具体的な授業づくりに向けて基本的な指導法や教材研究の仕方を学ぶ。また、地理、歴史、公民分野の視点から地図や年表などの資料やクイズを活用して授業を展開したり教材を開発したりする技能を身につける。指導案作成や板書、発問・指示・説明等の方法についても学び、社会科学習指導の基礎的な知識・技能・態度を身に付けるよう授業を展開する。実務家経験を活かし、このような学びを通して、ディプロマポリシーで掲げてある「専門的知識・技能の活用力」「就業力」につなげることを目的にしている。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 小学校社会科教育の意義と役割			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の概要、進め方、評価等について説明する。</li> <li>・社会科の原点と改正教育基本法及び社会科教育の役割を確認する。</li> </ul>			
第2回：学習指導要領 (社会科) 改訂の趣旨			
新学習指導要領 (社会科) の目的・内容等全面実施のポイントと学習指導案の書き方 (ICTの活用を含む)、学習評価について説明する。			
第3回：第3・4学年の目標・内容と授業づくり①			
指導計画の作成と内容の取扱いに配慮した第3・4学年授業づくりの計画を立てる。			
第4回：第3・4学年の目標・内容と授業づくり②			
地域学習の視点から、自己選択した教材に基づく学習指導案を作成する。			
第5回：第3・4学年の目標・内容と授業づくり③			
作成した学習指導案をもとにそれぞれの学年の模擬授業を行う。			
第6回：第5学年の目標・内容と授業づくり①			

指導計画の作成と内容の取扱いに配慮した第5学年授業づくりの計画を立てる。

第7回：第5学年の目標・内容と授業づくり②

国土学習、産業学習の視点から、自己選択した教材に基づく学習指導案を作成する。

第8回：第5学年の目標・内容と授業づくり③

作成した学習指導案をもとに国土学習、産業学習の視点からそれぞれの模擬授業の計画を立てる。

第9回：第6学年の目標・内容と授業づくり①

指導計画の作成と内容の取扱いに配慮した第6学年授業づくりの計画を立てる。

第10回：第6学年の目標・内容と授業づくり②

政治学習、歴史学習の視点から、自己選択した教材に基づく学習指導案を作成する。

第11回：第6学年の目標・内容と授業づくり③

第6学年の教材について作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。

第12回：模擬授業①

自己選択した第3・4学年の教材を対象にして「発問・指示・説明」を意識した模擬授業（45分）をもとに意見交換し、相互評価を実施する。（ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。）

第13回：模擬授業②

自己選択した第5学年の教材を対象にして「目標・内容・方法の一貫性」を意識した模擬授業（45分）をもとに意見交換し、相互評価を実施する。（ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。）

第14回：模擬授業③

第6学年の教材を対象にして、「子供の主体的な学習活動を支える教師の役割」という視点をもって「主体的・対話的で深い学び」を意識した模擬授業をもとに意見交換し、相互評価を実施する。（ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。）

第15回：本講義を振り返りまとめ、子供主体の社会科教育の意味理解を深める。

【授業実施方法】

本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。

テキスト

1. 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』平成30年日本文教出版
2. 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価のに関する参考資料 小学校 社会』令和2年 東洋館出版社

参考書・参考資料等

小学校社会科教科書（教育出版社など）および図書館等の関係図書・論文他

学生に対する評価

授業参加意欲・態度(40%)、毎回の振り返りシート等提出物(30%)、指導案等レポート(30%) などから判断する。

授業科目名： 教科指導法 I (算数)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉本 俊二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ・算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ 算数科における基本的な指導力の育成及び学習指導案の立案</li> <li>・到達目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 算数科の目標及び内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習指導要領解説における算数科の目標及び領域・学習内容並びに全体構想を理解することができる。</li> <li>②個別の学習内容のねらいや指導上の留意点を理解することができる。</li> <li>③算数科の学習評価の考え方や方法を理解することができる。</li> </ul> </li> <li>(2) 算数科の指導方法及び授業設計について <ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもの主体的・対話的で深い学びができる授業設計の重要性を理解することができる。</li> <li>②算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教科指導法 I (算数) では、教員を目指す者として「算数科教育指導法」の基礎的知識・技能を学び、ディプロマポリシーで掲げる「専門的知識・技能の活用力」に繋げることを目的としている。具体的には、算数科の目標及び領域・学習内容、学習指導案の構成等を学んだうえで、学生が実際に学習指導案を作成し模擬授業を行うことを中心に授業を進める。具体的な授業実践や授業研究会を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要な教材研究の仕方、学習指導案の立案の仕方、具体的な教師の支援、発問、板書等の基本的な指導方法について身に付けたり、評価規準や評価方法についても学んだりできるようにする。また、授業研究会での自己評価・相互評価等を通して、授業改善の視点を身に付けられるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・算数科の心得等</p> <p>教科指導法 I (算数) の講義の計画、ルーブリックの説明をし、算数科の授業で心がけることを知る。</p>			

第2回：算数科の目標や領域、数学的活動について

「主体的・対話的で深い学び」となる授業構想に従って、目標や領域、数学的な見方・考え方や数学的活動の意味を理解する。

第3回：「A 数と計算」(1) 数や計算の意味等とその指導について

数や計算の意味やこの領域の指導方法について理解する。

第4回：「B 図形」図形の概念形成と指導について

領域のねらいや内容、この領域の指導方法について理解する。

第5回：「C 測定」いろいろな量と測定及びその指導について

内容の概観、量の4段階指導、目的に応じた測定の方法と計器の選択について理解する。

第6回：「C 変化と関係」単位量あたりの大きさ、割合とその指導について

単位量あたりの大きさ、比例の関係、比の表し方、割合の考えについて理解する。

第7回：「D データの活用」統計的な処理の方法や起こり得る場合の数及びその指導について

資料の分類整理、表、グラフの活用、平均などの代表値等について理解する。

第8回：学習指導案の作成の仕方について

学習指導案の意味と基本的な形式、教材研究の仕方、評価の仕方等を理解する。

第9回：模擬授業① 低学年の内容についての情報機器及び教材を使った模擬授業2つ、意見交換と相互評価について、グループA・B

第10回：模擬授業② 低学年の内容についての情報機器及び教材を使った模擬授業2つ、意見交換と相互評価について、グループC・D

第11回：模擬授業③ 中学年の内容についての情報機器及び教材を使った模擬授業2つ、意見交換と相互評価について、グループE・F

第12回：模擬授業④ 中学年の内容についての情報機器及び教材を使った模擬授業2つ、意見交換と相互評価について、グループG・H

第13回：模擬授業⑤ 高学年の内容についての情報機器及び教材を使った模擬授業2つ、意見交換と相互評価について、グループI・J

第14回：各模擬授業を振り返り、それぞれに見られた各学習過程での指導方法について整理する。

第15回：まとめとして、「主体的・対話的で深い学び」につながる指導方法について整理した後、基本的な指導方法や学習指導案の作成を含めた試験をする。

#### 【授業実施方法】

本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編

参考書・参考資料等

プリント資料を配布する。

「小学校算数教科書」（1～6年）

学生に対する評価

筆記試験（60％）、学習指導案作成（20％）、課題レポート（10％）、受講態度（10％）

授業科目名： 教科指導法 I (理科)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 真一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ・理科		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 問題解決能力を育み、理科好きな児童を育てる理科授業の創造</p> <p>(到達目標) 小学校理科の目標をおさえ、指導案を作成し、模擬授業・実習を通して授業技術の習得を図り、実践的な指導力の基礎を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領について詳しく説明するとともに、それをもとに、理科教育の性格、目標、内容を明らかにし、教材の工夫、実験器具の取り扱い方、指導案の書き方や情報機器及び教材の効果的な活用も含めた展開のアイデア、模擬授業等を通して理科学習指導の効果的な方法について理解を図る。そして、毎回講義の後、簡単な実験・観察を取り入れ、内容の充実した楽しい講座を目指す。</p> <p>この授業で目的とする力は、学位授与方針のうち次の2つの力と対応している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に関する豊かな専門知識と技術を身に付け、子どもを理解し実践的に指導する力</li> <li>2. 模擬授業を通してコミュニケーション力、表現力を身に付け、使命感や責任感を持って教育に携わる力</li> </ol>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、理科の目標と内容及び系統について</p> <p>第2回：理科における学習評価及びICTの効果的な活用について</p> <p>第3回：授業構想、指導案作成、諸準備に替える (学習評価とICT機器の活用)</p> <p>第4回：授業構想、指導案作成、諸準備に替える (学習評価とICT機器の活用)</p> <p>第5回：メダカの観察「5年 メダカのたんじょう」 (メダカの観察、卵の中の成長、血液の流れ)</p> <p>第6回：電流「3年 電気で明かりをつけよう」「4年 電気のはたらき」「5年 電流と電磁石」 「6年 発電と電気の利用」 (回路、直列・並列、電流と電圧、抵抗、電磁石、発電)</p> <p>第7回：光と音「4年 光のせいしつ」「4年 音のせいしつ」 (光や音の性質について、光の反射・集光、音の伝わり方)</p> <p>第8回：月の満ち欠け「4年 月や星」「6年 月と太陽」 (月の形と位置の変化、月の位置や形と太陽の位置)</p> <p>模擬授業15分×1 (授業実践と振り返り) グループA</p> <p>第9回：模擬授業15分×2 (授業実践と振り返り) グループB</p> <p>第10回：模擬授業15分×2 (授業実践と振り返り) グループC</p>			

第1 1回：模擬授業15分×2（授業実践と振り返り）グループD

第1 2回：模擬授業45分×1（授業実践と振り返り）グループE

第1 3回：模擬授業45分×1（授業実践と振り返り）グループF

第1 4回：模擬授業45分×1（授業実践と振り返り）グループG

第1 5回：模擬授業45分×1（授業実践と振り返り）グループH

教科指導法 I のまとめ（講義の振り返り、新年度への心構えと激励）

定期試験は実施しない。

**【授業実施方法】**

本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。

**テキスト**

小学校学習指導要領（平成29年7月 文部科学省）

小学校新学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）

**参考書・参考資料等**

授業中に適宜資料を配布する。

**学生に対する評価**

受講カード（40%）、指導案（25%）、模擬授業の発表内容（35%）

授業科目名： 教科指導法（生活）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱口 恒一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】生活科学習指導に関する授業構想力や授業実践力の育成</p> <p>学習指導要領及び生活解説書の目標や内容に基づき、生活科の理念や授業づくりのポイント、模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善の視点、評価のあり方や教師の役割について実践事例を踏まえ、その理解を図る。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活科が創設された経緯や生活科の教育原理について理解することができる。</li> <li>2 生活科の「目標と内容」を構造化することができる。</li> <li>3 受講者自身が子ども目線で実体験することで、生活科学習の本質を体感する。</li> <li>4 実践例や実践記録から子どもの学びの様相とそれを支援する教師の役割について考察することができる。</li> <li>5 学習材の開発や教材制作に取り組み、それを生かした指導計画を作成することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>平成元年、小学校1・2年生に新設された生活科の現状と課題を説明するとともに、平成29年度に改訂された新学習指導要領の要点を解説する中で、生活科の在り方を探究する。そのために、具体事例をもとに年間指導計画・単元計画の立案、それをもとにした指導案の作成及び模擬授業を実施する。また、継続的に栽培活動を実施する。このような学びを通して、ディプロマポリシーで掲げている「専門的知識・技能の活用力」「就業力」につなげることを目的にしている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：生活科創設の理念と生活科の目標</p> <p>第3回：生活科の内容とその構成</p> <p>第4回：フィールドワーク「大学を探検しよう」①（目標立案、計画、準備）</p> <p>第5回：フィールドワーク「大学を探検しよう」②（活動）</p> <p>第6回：フィールドワーク「大学を探検しよう」③（振り返りと指導略案の作成）</p> <p>第7回：指導計画作成の意味と内容の取り扱いについて</p> <p>第8回：子ども目線とスタートカリキュラムの必要性（ぴかぴかの一年生）</p> <p>第9回：生活科の9つの内容と授業づくり（ポイントと学習指導案（ICTの活用を含む）作成）</p> <p>「学校、家庭及び地域の生活に関する内容（1）～（3）」</p>			

第10回：生活科の9つの内容と授業づくり（ポイントと学習指導案（ICTの活用を含む）作成）

「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容（4）～（8）」

「自分自身の生活や成長に関する内容（9）」

第11回：模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善の視点①

（ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。）

第12回：模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善の視点②

（ICTを活用した模擬授業を積極的に取り入れる。）

第13回：年間指導計画の作成

第14回：学習評価のあり方

第15回：子どもの学びと教師の役割（振り返りとまとめ）

#### 【授業実施方法】

本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。

#### テキスト

- ・文部科学省「学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編」東洋館出版社、平成30年 134円＋税
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校生活』東洋館出版社、令和2年 800円＋税

#### 参考書・参考資料等

- ・新編 あたらしいせいかつ1・2上下 教科書と教師用指導書 【東京書籍】
- ・今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり 田村学著
- ・必要な資料を適宜配布

#### 学生に対する評価

授業参加意欲・態度(40%)、授業の振り返りシート等提出物(30%)、レポート(30%)などから判断する。

なお、科目間または学部・学科間の成績の偏りを少なくするために、前述の方法によって評価した結果を、さらに成績評価システム（絶対的評価プログラム）によって変換した結果を基に最終評価を決定する場合がある。

授業科目名： 教科指導法Ⅰ（音楽）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 美馬 大作
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・音楽		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：小学校音楽科の目標及び内容を理解し、学習指導に必要な専門的な知識・指導技術を習得し、授業実践力を身に付ける。</p> <p>（1）音楽科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導要領における音楽科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解することができる。</li> <li>2 個別の学習内容について指導上の留意点を理解することができる。</li> <li>3 音楽科の学習評価の考え方を理解することができる。</li> <li>4 音楽科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</li> <li>5 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。</li> </ol> <p>（2）音楽科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解することができる。</li> <li>2 音楽科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>3 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案等を作成することができる。</li> <li>4 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善等の視点を身に付けることができる。</li> <li>5 音楽科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校の音楽科の役割及び目標と「表現」「鑑賞」に関する指導内容及び指導方法について理解を深める。また、実際に指導する上で必要な実技能力や知識、指導力の習得を目指す。必要に応じたCD、DVD等の教材やタブレット端末をはじめとする情報機器の活用を通して理解、指導力の向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：講義の概要、成績評価についての周知及び各自の音楽上の経験や考え方について調査</p> <p>第2回：音楽科の目標：各学年の目標及び指導内容について</p> <p>第3回：「表現」領域（歌唱）：歌唱の意義と留意点について</p> <p>第4回：「表現」領域（歌唱）：実践を通し、歌い方、音の響き合いについて理解し、技術や指導力の習得について</p>			

<p>第5回：「表現」領域（器楽）：器楽の意義と留意点について</p> <p>第6回：「表現」領域（器楽）：実践を通して楽器の奏法について理解し、技術や指導力の習得について</p> <p>第7回：「表現」領域（器楽）：実践を通して音の響き合いについて理解し、技術や指導力の習得について</p> <p>第8回：「表現」領域（音楽づくり）：音楽づくりの意義と留意点について理解し、即興表現や音楽づくりへの指導力の習得（学習用音楽ソフトの活用を含む）について</p> <p>第9回：「鑑賞」領域：鑑賞の意義と留意点について</p> <p>第10回：「鑑賞」領域：学年に応じた鑑賞指導の組み立て方及びCD、DVD等の教材や情報機器の活用について</p> <p>第11回：【共通事項】：評価、【共通事項】の内容と取扱い、評価の種類・時期・観点・方法について</p> <p>第12回：学習指導案の作成：題材、教材選択、評価規準、本時の展開について</p> <p>第13回：模擬授業：グループ毎に模擬授業を実施し授業後の反省、問題点等の話し合い（グループA・B）</p> <p>第14回：模擬授業：グループ毎に模擬授業を実施し授業後の反省、問題点等の話し合い（グループC・D）</p> <p>第15回：まとめ：音楽科の意義 振り返りのワークシート</p> <p>定期試験：なし</p> <p><b>【授業実施方法】</b></p> <p>本授業は、ICTを活用しアクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施する。</p>
<p>テキスト</p> <p>○小学校教員養成課程用 改訂版 最新「初等科音楽教育法」音楽之友社 【ISBNコード】9784276821026</p> <p>○文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 音楽編」東洋館出版社 【ISBNコード】9784491034652</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>指定教科書、ソプラノリコーダー</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度・取り組み姿勢・模擬授業40%、レポート・提出物20%、実技能力40%</p>

授業科目名： 教科指導法Ⅰ（図画 工作）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 居上 真人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「テーマ」表現や鑑賞の活動を通して、造形することの楽しさを体験する。</p> <p>「到達目標」児童の発達段階と造形表現の関連について理解し、学習支援者としての基本的事項を理論と実践を通して身につけます。さらに、受講者自らが表現や鑑賞する活動を通して想像したり、発想したりしながら、造形的な思考力と共に創造的な造形活動の楽しさを味わい豊かな感受性を培うことを目標とします。</p>			
授業の概要			
<p>小学校学習指導要領（図画工作科）を基に、子どもが造形表現する意義や意味について理解する。このことを踏まえ、子どもの造形を支援する指導者として必要な資質（子どもの思いの受容、様々な造形的なスキル、支援方法など）を講義や演習、アクティブラーニング、グループワーク等を通して体験的に学ぶ。併せて自らの製作やグループによる模擬授業などを通して教材研究、授業設計、学習環境の整備、学習評価などの方法を会得し、造形する子どものよき支援者になることをめざす。</p>			
授業計画			
第1回：1 オリエンテーション・アート入門 <鑑賞活動>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義の進め方や内容について説明する。</li> <li>○電子黒板を使い、映像による芸術作品の鑑賞活動を行う。（著名な絵画や立体作品）</li> <li>○演習『線や形を生かして発想しよう』という題材をして発想することの面白さを味わう。</li> </ul>			
第2回：図画工作科の目標や内容について説明する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学習指導要領（図画工作）を基に、教科の目標や内容について各学年の発達段階を踏まえながら理解していく。</li> <li>○演習『紙コップを使ったおもちゃづくり』という題材を通して、発想や構想、技能を身に付けていく。&lt;工作領域&gt;</li> </ul>			
第3回：図画工作科の「造形遊び」の内容について説明する。<環境を生かした造形遊び>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習『新聞紙を丸めて・繋いで・・・』という題材を通して、環境や材料の特性を生かして造形活動する楽しさについて体験的に学んでいく。</li> </ul>			
第4回：図画工作科の「造形遊び」の内容について説明する。<平面表現による造形遊び>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習『モダンテクニックを使ってオリジナルペーパーをつくろう』という題材を通して、様々な表現方法を体験的に理解していく。</li> </ul>			

第5回：生活の中にある造形表現について鑑賞活動を行う。＜鑑賞活動・調べ学習＞

○演習『見つけよう 君の周りのナイスデザイン』について調査に基づき書画カメラや電子黒板を使い発表する。

・私たちの身の回りにあるデザインされたもののよさや意図などについて理解を深めていく。

・友達の発表について尋ねたり、感想を述べたりする。＜アクティブラーニング＞

第6回：図画工作科の「立体に表す」の内容について説明する。＜立体に表す（焼成粘土）＞

○演習『ポケットサイズの友だち（焼成粘土）』という題材を通して、立体に表す面白さや土粘土の表現方法について体験的に学んでいく。

第7回：図画工作科の「版に表す」内容について説明する。＜版に表す（平面表現）＞

○演習『版遊びを楽しもう』という題材を通して、版に表す面白さや表現方法について体験的に学んでいく。

第8回：図画工作科の「絵に表す」の内容について説明する。＜絵に表す・造形遊び＞

○演習『石の形から発想しよう』という題材を通して、石の形から発想したり、石をキャンバスとして描く面白さを味わったりする。

第9回：図画工作科の学習指導案の作成について説明する。＜授業の立案＞

○模擬授業のためのオリエンテーション

目標の設定、題材のもつ教育的な意味、指導計画、材料・用具の準備、参考作品の製作、評価の仕方などについて説明する。

○教師による模擬授業を参観し、意見交換等を行い授業準備の手がかりとする。

第10回：模擬授業の準備をする。＜授業準備＞

○教材づくり、指導案作成、板書、学習環境の整備、授業での役割分担を決め、各自で準備をする。書画カメラや電子黒板などを効果的な使い方について考える。

第11回：模擬授業Ⅰ ＜授業の実施及び意見交換＞Ⅰ

○少数班ごとに模擬授業のための教材研究・指導案の作成・材料用具の準備製作・鑑賞・評価を実施する。（学年・領域は自由）

○模擬授業をもとに意見交換を行う。＊1～3班（1班15分）

○書画カメラや電子黒板などを効果的に使い授業目標の明確化に迫る。

第12回：模擬授業Ⅱ ＜授業の実施及び意見交換＞Ⅱ

○少数班ごとに模擬授業のための教材研究・指導案の作成・材料用具の準備製作・鑑賞・評価を実施する。（学年・領域は自由）

○模擬授業をもとに意見交換を行う。＊4～6班（1班15分）

○書画カメラや電子黒板などを効果的に使い授業目標の明確化に迫る。

第13回：模擬授業Ⅲ ＜授業の実施及び意見交換＞Ⅲ

○少数班ごとに模擬授業のための教材研究・指導案の作成・材料用具の準備製作・鑑賞・評価を実施する。（学年・領域は自由）

<p>○模擬授業をもとに意見交換を行う。＊7～9班（1班15分）</p> <p>○書画カメラや電子黒板などを効果的に使い授業目標の明確化に迫る。</p> <p>第14回：模擬授業の振り返りを行う。</p> <p>○授業を撮影した動画を見ながら、下記の視点から意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の設定、助言や支援内容、指導計画、教材研究、学習評価など</li> </ul> <p>第15回：1～14回目までの講義を振り返り自己評価をし、感想を書く。</p> <p>○講義内容を振り返り重要なポイントを再確認する。</p> <p>○講義内容に関する感想を書く。</p> <p>○ポートフォリオの提出</p> <p>定期試験 なし ポートフォリオの提出</p> <p><b>【授業実施方法】</b></p> <p>本授業は、ICTを活用しアクティブラーニングの方法を取り入れ実施する。</p>
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省（明治図書）</p> <p>授業者が適時資料やワークシートなどを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>○小学校図画工作科の指導（建帛社）○図画工作科の教科用図書（日文及び開隆堂）</p> <p>○楽しい図画工作授業の作り方（日本文教出版）○美術教育の基礎知識（建帛社）</p> <p>○ベーシック造形技法（建帛社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>提出物及びレポートの内容 40%（作品・講義に関するレポート・美術鑑賞レポート・ポートフォリオ）、授業への取り組み 40%（講義や演習への積極的・熱心な取り組み・事前準備など）、模擬授業への取り組み 20% ＊グループごとに授業の立案・授業実施を行う。</p>

授業科目名： 教科指導法（家庭）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中岡 泰子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・家庭		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ</p> <p>小学校家庭科の基本的な指導方法と実践的な技能の習得を目指す</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校家庭科の理念や特性、目標、学習内容と取り扱い、評価について理解することができる。</li> <li>・小学校家庭科の指導法について理解することができる。</li> <li>・小学校家庭科の指導計画を立案することができる。</li> <li>・生活課題に即した教材研究及び授業を行うことができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校家庭科教育の目標、内容、指導計画および学習指導案の作成方法、評価等について概説する。小学校家庭科の指導で必要とされる基礎的基本的な知識の理解とともに、可能な限り体験学習（裁縫・ミシン縫いと製作活動、調理実習等）も取り入れ、技能の習得もめざしていく。関連して子どもたちの生活実態や現代的な生活課題に気づき、実践的な力を育てる家庭科教育の果たす役割について検討する。子どもが家庭生活への関心を高め、家族や家庭生活を大切にしている心情を深めながら、生活上の自立ができるようにするための家庭科の指導について、学校現場での実践事例を取り上げながら考察する。同時に模擬授業を行い、教材研究力や授業設計力を培っていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス「家庭科教育の基礎概念」</p> <p>第2回：小学校家庭科の現状と特性、小学校学習指導要領家庭の目標と内容について</p> <p>第3回：小学校家庭科の指導計画、学習指導案の作成と評価について</p> <p>第4回：小学校家庭科の学習指導、教材・教具と指導法、ICTの活用について</p> <p>第5回：小学校家庭科の内容（A）家族・家庭生活……学習内容と指導の工夫について</p> <p>第6回：小学校家庭科の内容（B）衣食住の生活……日常の食事と調理の基礎知識</p> <p>第7回：小学校家庭科の内容（B）衣食住の生活……調理の基礎技能と調理実習</p> <p>第8回：小学校家庭科の内容（B）衣服の着用と手入れ……学習内容と指導の工夫について</p> <p>第9回：小学校家庭科の内容（B）生活を豊かにするものの製作実習</p> <p>第10回：小学校家庭科の内容（B）快適な住まい方……学習内容と指導の工夫について</p>			

第11回：小学校家庭科の内容（C）消費生活・環境……学習内容と指導の工夫について  
第12回：指導案作成と模擬授業（A 家族・家庭生活）  
第13回：指導案作成と模擬授業（B 衣食住の生活）  
第14回：指導案作成と模擬授業（C 消費生活・環境）  
第15回：本講義のまとめ

テキスト

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年7月文部科学省）
- ・わたしたちの家庭科5・6（鳴海多恵子他著、開隆堂出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（80%）、模擬授業の発表内容（20%）

授業科目名： 教科指導法 I (体育)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 范 永輝、湯口 雅史 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：小学校体育科の授業を通して、実践的に学びながら、授業計画づくり、具体的な授業展開について学ぶ。</p> <p>到達目標：小学校学習指導要領に示されている、小学校体育の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解ができる。また各運動領域である、体づくり運動、器械運動系、陸上運動系、水泳系、ボール運動系、表現運動系、集団行動等の知識理解に加えて運動技術をマスターし、学習指導案の作成や模擬授業を通じて授業設計の方法を習得することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会における児童をとりまく環境課題を踏まえ、生涯スポーツの礎を築く小学校体育科の役割を理解する。また、各運動領域における運動特性に応じた指導法・学習評価を理解し、模擬授業を通して授業設計の方法の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育科の目標と内容、各運動領域の構成と学習評価、学習指導案の作成と授業設計 (范)</p> <p>第2回：体づくり運動の目的と内容、指導法、評価法、児童の体力についての現代的課題 (范)</p> <p>第3回：陸上運動の目的と内容、走・跳動作の段階的指導法と評価法 (湯口)</p> <p>第4回：陸上運動におけるハードル走、走り幅跳び等の模擬授業と振り返り (湯口)</p> <p>第5回：ボール運動の目的と内容、ボールの投球・受球動作の段階的指導法 (湯口)</p> <p>第6回：ボール運動における基本技能・ゲームの展開の指導法と評価法 (湯口)</p> <p>第7回：ボール運動における各種目の模擬授業と振り返り (湯口)</p> <p>第8回：水泳における目的と内容、基礎的泳法と指導法、情報機器を活用した学習方法 (范)</p> <p>第9回：着衣水泳の目的と指導法、評価法、模擬授業と振り返り (范)</p> <p>第10回：器械運動の目的と内容、マット運動の段階的指導法と情報機器を用いた学習方法 (范)</p> <p>第11回：器械運動における跳び箱と鉄棒の指導法と評価法 (范)</p> <p>第12回：器械運動におけるマット運動、跳び箱等の模擬授業と振り返り (范)</p> <p>第13回：表現運動の目的と内容、リズム遊びから表現運動への展開課題と指導法、評価法 (范)</p> <p>第14回：表現運動におけるフォークダンスと表現運動等の模擬授業と振り返り (范)</p> <p>第15回：児童を取り巻く環境課題と保健、体育理論の目的と内容、情報機器の活用 (范)</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領 (2017) 文部科学省</p>			

参考書・参考資料等

適宜配布する。

学生に対する評価：

各回における授業への取り組み姿勢、各運動領域における技能課題の習得の度合い並びに模擬授業の内容（学習指導案含む）、レポート課題によって総合的に評価する。

授業科目名： 初等教育指導法（外国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： フェネリー マーク
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 学習指導要領における外国語教育の考え方・理念・目標を理解した上で、小学校で英語を教えるために必要な知識・技能を学ぶ。			
【到達目標】 学習指導要領を理解した上で、Let's Try 及び 検定教科書を使った授業計画を立て、実際に外国語活動の授業実践（模擬授業）ができる。 授業実践に必要な英語力を理解し、授業運営または児童との関わりに必要な英語力を身に付け、実践指導に活かすことができる。			
授業の概要			
2020年から小学校外国語活動の早期化又は高学年における教科化を受け、3・4年生又は5・6年生を指導する教員に必要な知識や技術を理解深め、体験的に授業実施・参加を通して外国語活動・外国語科の指導力を身につけるとともに小学校での英語指導法について考えてゆく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 小学校外国語教育とは何か？第2言語習得の基本			
第2回：新学習指導要領を理解しよう 学習指導要領の目標にそった活動 コミュニケーションにおける見方・考え方とは何か？			
第3回：小中高における外国語教育の変化・連携 他教科連携・国語と外国語の言語活動 中学年高学年の連携そして中学校への連携			
第4回：新教材を使った授業[授業見学] 実際の授業を見て、指導計画を学ぶ			
第5回：代表的な指導法・クラスルームイングリッシュ（Small Talk） 歴史的に「人気のある」方法論を活動を通して理解しよう クラスルームイングリッシュ			
第6回：教材の選び方活用法・デジタル教科書の活用 子供たちに合う教材とは何か？深い学びを目指した教材研究			
第7回：歌・チャンツを使った指導・クラスルームイングリッシュ（Small Talk）			

<p>実践的な活動・イントネーションや発音練習</p> <p>第8回：デジタル教科書・ICTコンテンツを使った指導</p> <p>ICT・LMSの活用、「個別最適な学び」と「協働的な学び」新世代外国教育</p> <p>第9回：小学校における外国語の指導者の役割</p> <p>ALT・地域人材・専科教員との関わりやチームティーチングのあり方</p> <p>第10回：文字指導</p> <p>外国語活動・外国語科における文字にあり方、音声に十分に慣れ親しんだ語彙</p> <p>第11回：コミュニケーション活動とパフォーマンス評価のあり方</p> <p>指導と評価の一体化</p> <p>第12回：年間計画作成 タスク・プロジェクト・言語活動</p> <p>単元を通してタスク・言語活動を組み立てる</p> <p>第13回：指導案作成</p> <p>授業実践のための指導案・教材作成</p> <p>第14回：模擬授業実践（1）</p> <p>学生による授業実践 基本的に英語で授業を行う（グループA）</p> <p>第15回：模擬授業実践（2）</p> <p>学生による授業実践 基本的に英語で授業を行う（グループB）</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動/外国語編 平成29年告示</li> <li>・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動</li> </ul> <p>国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・New Horizon Elementary 5年年 東京書籍</li> <li>・New Horizon Elementary 6年生 東京書籍</li> <li>・New Horizon Elementary Picture Dictionary 東京書籍</li> </ul>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>[小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語] 大城 賢 東洋館出版社</p> <p>[小学校英語早わかり実践ガイドブックー新学習指導要領対応 高学年用] 大城 賢 萬谷 隆一 開隆堂出版</p> <p>[平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編] 吉田 研作 明治図書出版</p> <p>[平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語編] 吉田 研作 明治図書出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>模擬活動10%、模擬授業30%、指導計画・指導案30%、レポート30%の総合評価</p>

授業科目名： デジタル創生学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 充郎、 近藤 明子、細川 康輝、 山本 耕司、橋爪 正樹 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：デジタル技術によって新たな価値を創造するデジタル創生学とは何かを理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル創生学が何かを理解し、その修得には何を学ぶべきかを知ることができる。</li> <li>デジタル創生学を追求するための科目群の配置と意味を理解し、自らの将来を考えるコースの特徴を知ることができる。</li> <li>現在のデジタル社会の状況と課題を知り、今後の履修科目の選択における基礎知識を得ることができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル創生学は、デジタル技術を用いて新たな価値を創造し、地域社会に活力をもたらす学問である。地域の人々の幸福感を高め、生活に高い満足度を得るための合理性を追求するには経済・経営的思考が求められ、それはデザイン思考として捉えられる。経済を活性化させ、生活にゆとりと便利さを提供するには地域の様々な循環が鍵となり、そのための仕組みを広く考えていく必要がある。そこにどんな学びが必要で、実現に不可欠な技術力をどう付けていくのかをデザインするのがデジタル創生学である。本授業では、デジタルイノベーション、メディアデザイン、AI・情報システムの各コースの特徴を知り、地域を元気にするための知識と技術を概観する。デジタルイノベーションコースでは、ドローンを活用し、食や医療、福祉、スポーツなど多様な分野の課題解決をデータ収集・分析によって探究する。メディアデザインコースは、映像制作やVR/ARを駆使して人々に伝わるコンテンツ作りを学ぶ。AI・情報システムコースは、利便性とセキュリティを追求したクラウド型AIシステムの構築とディープラーニングの習得が特徴である。本授業ではこれらの学びの概要を理解する。</p> <p>授業は主担当教員が概説と問題提起を行い、主担当と副担当がパネル討論を行って理解を深める。その後学生は副担当が指導するグループに分かれて学習し、その成果をまとめて発表する。そして主担当が講評する学習形式をとる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスと講義の全体像 デジタル創生学の基本概念と期待される役割について（主担当：山本、副担当：池田、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第2回：デジタル技術の変革と地域活性化（主担当：橋爪、副担当：池田、近藤、細川、山本）</p>			

<p>第3回：デジタルイノベーションの基礎（主担当：細川、副担当：池田、近藤、山本、橋爪）</p> <p>第4回：食・医療・福祉分野でのデジタル活用（主担当：橋爪、副担当：池田、近藤、細川、山本）</p> <p>第5回：スポーツ・ライフスタイルへの応用（主担当：細川、副担当：池田、近藤、山本、橋爪）</p> <p>第6回：メディアデザインの概要（主担当：山本、副担当：池田、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第7回：最新技術を駆使したコンテンツ制作（主担当：近藤、副担当：池田、山本、細川、橋爪）</p> <p>第8回：伝える力とメディアの役割（主担当：山本、副担当：池田、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第9回：AI・情報システムの基礎（主担当：池田、副担当：山本、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第10回：ディープラーニングと応用（主担当：池田、副担当：山本、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第11回：情報システム設計の実例（主担当：池田、副担当：山本、近藤、細川、橋爪）</p> <p>第12回：経済・経営的視点の導入（主担当：近藤、副担当：池田、山本、細川、橋爪）</p> <p>第13回：デザイン思考と地域づくり（主担当：近藤、副担当：池田、山本、細川、橋爪）</p> <p>第14回：デジタルデバイドやハンディキャップ他、多様な人々が共生する社会におけるデジタルの有効性（主担当：細川、副担当：池田、近藤、山本、橋爪）</p> <p>第15回：まとめ（主担当：橋爪、副担当：池田、近藤、細川、山本）</p>
<p>テキスト</p> <p>授業時に伝える。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時に伝える。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業に取り組む姿勢とレポート・試験等により総合的に評価する。</p>

授業科目名： 情報科学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：戸川 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：情報を科学的に扱うための基礎的な理論と概念を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科学の基本的な概念と理論を理解できる。</li> <li>・データ、アルゴリズム、ネットワークなどの基礎知識を説明できる。</li> <li>・情報技術が社会に及ぼす影響や倫理的な側面について説明できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では情報技術やデジタル社会の基礎的な知識と情報科学の重要な概念や応用を学ぶ。情報の概念、データとアルゴリズムの基礎、インターネットとネットワーク、データの管理と活用、そして情報倫理について理解し、現代社会における情報の役割と影響を理解することを目的としている。それらの観点から情報の安全な取り扱いとリスク管理の手法を習得し、デジタル社会での適切な対応力を養うための基礎的な内容を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 情報科学の誕生から現在までの歴史的背景を紹介する。</p> <p>第2回：情報とデータの基礎 情報とは何か、データとの違い、情報の種類とその表現方法を学ぶ。</p> <p>第3回：アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基本概念と簡単な例を紹介し、日常生活に応用できる方法を学ぶ。</p> <p>第4回：プログラミングの基本構造 順次処理、条件分岐、繰り返しなど、プログラムの基本的な流れと構造を理解する。</p> <p>第5回：コンピュータの仕組み ハードウェアとソフトウェアの役割と、デジタル化の意義について学ぶ。</p> <p>第6回：インターネットとネットワークの基礎 インターネットの構造、IPアドレスやURLなどの基本概念を解説します。</p> <p>第7回：データベースの基礎 データの管理方法、関係データベースの概念と基本的なSQL操作について学ぶ。</p> <p>第8回：ウェブ技術の基本 HTML、CSSの基礎を学び、簡単なウェブページの作成方法を学ぶ。</p> <p>第9回：ビッグデータとその活用</p>			

<p>ビッグデータの特徴と、データ分析の基礎的な手法を概観する。</p> <p>第10回：AIと機械学習入門</p> <p>AIの基礎概念、機械学習の仕組みと応用例を理解する。</p> <p>第11回：情報セキュリティの基礎</p> <p>セキュリティの基本概念、脅威と対策、個人のプライバシー保護について学ぶ。</p> <p>第12回：情報倫理と社会的影響</p> <p>情報技術に関連する倫理的な問題と、その社会的影響について議論する。</p> <p>第13回：情報技術と法的側面</p> <p>知的財産権やサイバー犯罪など、情報技術に関連する法的な課題を学ぶ。</p> <p>第14回：テクノロジーと社会の未来</p> <p>デジタル技術の未来展望や、テクノロジーが社会に与える可能性について考える。</p> <p>第15回：まとめ・定期試験</p> <p>これまでの内容を総復習し、成績評価のための質疑応答と要点の整理を行う。</p>
<p>テキスト</p> <p>田中琢真、学術図書出版社「情報科学概論 第2版」、2,500円（税別）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回で提示する課題提出 30%、期末試験 70%</p>

授業科目名： セキュリティ管理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：曾根 直人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会（職業に関する内容を含む。） ・ 情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ: ICTを安心、安全に利用するために必要な知識を理解し、組織における情報セキュリティの確保についての考え方や関連法律について習得する。</p> <p>到達目標: 安全にパソコンやスマートフォンの利用ができるようになる。組織における情報対策の必要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報セキュリティは、Society 5.0の時代を安心、安全に利用するためには必須の知識である。本講義では、情報セキュリティに関する基礎的な知識および暗号化などの技術に関する知識を習得する。また組織内部でのセキュリティポリシーの考え方についても学ぶ。講義形式で授業を進めるが、視聴覚教材も用いたり、小テストなども実施することで双方向の授業を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回: ガイダンス 講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回: 今日のセキュリティリスク 情報セキュリティにおける被害事例の紹介</p> <p>第3回: 情報セキュリティ10大脅威 IPAが毎年発表する情報セキュリティ10大脅威を例に最近の情報セキュリティ上の脅威を紹介します。</p> <p>第4回: 情報セキュリティの基礎知識 情報セキュリティの基本概念について説明します。</p> <p>第5回: 脅威とその対策 マルウェアなど情報セキュリティ上の脅威について紹介するとともに対策についても学びます。</p> <p>第6回: フィッシングとその対策 フィッシングなど詐欺行為について紹介するとともに対策についても学びます。</p> <p>第7回: スマートフォンや無線LANの脅威とその対策 スマートフォンや無線LANの脅威について紹介するとともに対策についても学びます。</p> <p>第8回: 組織のセキュリティ対策 組織を守るための情報セキュリティポリシーの考え方について紹介します。</p> <p>第9回: 情報資産の考え方 情報セキュリティ対策を計画するのに必要となる情報資産の考え方を紹介します。</p> <p>第10回: 認証技術 アカウント、ID、パスワードに関する知識や攻撃方法、その対策について紹介します。</p> <p>第11回: ネットワークセキュリティ ネットワークを介してシステムを攻撃する手法や、その対策としてのファイアウォールについて紹介します。シミュレーターなどによる模擬攻撃体験も行ないます。</p>			

第12回:暗号技術 ネットワークでデータを安全に届けるために利用される暗号技術について紹介します。

第13回:公開鍵暗号とデジタル署名 公開鍵暗号およびデジタル署名について紹介します。実際にインターネットでどのように公開鍵が利用されているか学びます。

第14回:情報セキュリティ関連の法規と制度 情報セキュリティ関連の国際標準や法律に関して紹介します。

第15回:まとめ 講義を振り返り、情報セキュリティについての内容を再確認の後、筆記試験を行う。

テキスト

情報セキュリティ読本 六訂版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内小テスト30%、試験70%

授業科目名： プログラミング入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：辻岡 卓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：プログラミングの基礎的なスキルとコンセプトを学ぶ。</p> <p>到達目標は以下のとおり。</p> <p>(1)プログラミングの基本概念を理解し、ごく簡単なプログラムを自身で作成することができる。</p> <p>(2)もし、「処理のアルゴリズムが理解できない」、「エラーが発生した」等の困難に直面した場合でも、ネットで検索するなど主体的に対処することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラミング未経験者、あるいは経験の浅い受講学生を対象に、プログラミングの基礎的なスキルとコンセプトを学ぶ科目である。プログラミングの基礎として、入出力、データ型、制御構造(条件分岐・繰り返し)、関数・モジュールの利用、リスト・タプルについて学ぶ。Python言語を用いた演習を軸とするが、特定のプログラミング言語に限らない基本概念を広く理解することを狙う。またAIやデータサイエンスに関連する基本的なデータ処理や簡単な可視化も学習し、これらの分野への導入としての役割を担う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション プログラミングの概念、Pythonプログラミングの導入</p> <p>第2回：基本文法1 変数、データ型、演算子</p> <p>第3回：基本文法2 条件分岐 (if文)</p> <p>第4回：繰り返し処理1 for文の基礎、およびリストの基本操作</p> <p>第5回：繰り返し処理2 while文を用いた簡単なゲームの作成</p> <p>第6回：関数の基礎 関数の定義と呼び出し、およびモジュールの利用</p> <p>第7回：データ構造1 リストの応用、およびタプルの基礎</p> <p>第8回：データ構造2 辞書の基礎と応用</p> <p>第9回：ファイル操作 csvファイルの操作</p> <p>第10回：ここまでのまとめ</p> <p>第11回：グラフィックスプログラミング 図形描画、および入力画像の簡単な加工</p> <p>第12回：データ処理 Pandasライブラリの基礎</p> <p>第13回：可視化 Matplotlibを用いたグラフ作成</p> <p>第14回：ミニプロジェクト ここまでの学習内容を用いた簡単なゲームの作成</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>テキスト 特になし</p>			

参考書・参考資料等

Python1年生 第2版 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ、森 巧尚 著、翔泳社。

学生に対する評価

第10回講義「ここまでのまとめ」および第15回講義「まとめ」において課す課題の出来から総合的に評価する。

授業科目名： ソフトウェア基礎論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：細川康輝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ソフトウェア作成に必要な知識・技能を身につける</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングの基本概念を理解し、アルゴリズムを考えることができる。</li> <li>・アルゴリズムに沿ったプログラムを作成することができる。</li> <li>・デバッグすることができる。</li> <li>・簡単なソフトウェアを作成することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラミング能力を身につけるためには、プログラミングについて学ぶだけではなく、実際にアルゴリズムを考え、コーディングすることを数多く経験することが重要である。本授業では、「プログラム入門」で学ぶプログラミングの基礎について、多数の課題についてアルゴリズムの考案とそのコーディングする方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：授業概要などの説明後、プログラミング実行環境の確認、プログラムの入力・実行方法を学修する。</p> <p>第2回：デバッグについて：エラーの種類・意味を紹介し、デバッグの方法について学修する。</p> <p>第3回：演算子による処理：各種演算子について紹介し、各種演算子を組み合わせた処理について学修する。</p> <p>第4回：条件分岐を用いた処理：条件分岐について紹介し、各種演算子とともに条件分岐を用いた処理について学修する。</p> <p>第5回：繰り返し処理（for文）を用いた処理：for文とリストを紹介し、それらを用いた処理について学修する。</p> <p>第6回：繰り返し処理（while文）を用いた処理：while文を紹介し、for文と比較しつつ、While文による処理について学修する。</p> <p>第7回：関数を用いた処理：関数について紹介し、関数を利用した処理方法について学修する。</p> <p>第8回：リストとタプル：リストやタプルを紹介し、それらを用いた処理について学修する。</p> <p>第9回：辞書：辞書を紹介し、それらを用いた処理について学修する。</p> <p>第10回：プログラム実行環境について：Google ColaboratoryのようなWeb環境とローカル環境の違いについて紹介し、ローカル環境でのプログラム開発環境について学修する。</p> <p>第11回：GUIプログラミング：TKinterについて紹介し、Tkinterを利用したGUI作成方法を学修する。</p>			

<p>る。</p> <p>第12回：ウィジェット：Tkinter の各種ウィジェットの紹介とそのレイアウト方法について学修する。</p> <p>第13回：イベント駆動型プログラミング：イベントを用いたプログラミングについて紹介し、イベント駆動型のGUIアプリケーションについて、学修する。</p> <p>第14回：独自アプリケーションの作成方法：これまで学んだ内容を駆使した独自アプリケーションの作成方法について学修する。</p> <p>第15回：まとめ：アルゴリズムの考案とそのコーディング、そしてデバッグについて総括する。</p>
<p>テキスト</p> <p>無し</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜配布</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業の中で指示する課題のレポート80%、および、独自アプリケーション(20%)で評価する。成績評価システム（絶対的相対評価）により評価する。</p>

授業科目名： パソコン活用実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：細川康輝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：CUI、プログラムを用いたファイル処理など、高度なパソコン活用技術を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークストレージなどのサービスを活用したデータ保管・転送ができる。</li> <li>・CUIでのファイル処理・データ可視化ができる。</li> <li>・プログラムでの大量のデータ変換・ファイル処理ができる。</li> <li>・複数のアプリケーションを用いたファイル処理の自動化ができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>巨大なデータの処理や、高度なアプリケーションの連携などをGUIでの操作だけでは効率的な活用が難しい処理が、技術の進歩によってパソコンでも行うことができるようになったが、そのような活用は一部のエキスパートに限られているのが現状である。本授業では、プログラムによる大量のデータ変換や自動化や複数のアプリケーションの連携による効率化など、幅広い応用技術を学修し、実際の問題解決や業務効率化に向けて、創造的なパソコンの利用方法を考案・実行し、実践的なスキルを培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：授業概要などの説明後、GUIによるファイル処理とCUIによるファイル処理を紹介し、その対応について学ぶ。また、ショートカットキーなどキーボードでの操作についても学ぶ。</p> <p>第2回：コマンドラインの入力：コマンドラインへ入力する基本的なコマンドを紹介し、ファイル処理を中心とした実習を行う。</p> <p>第3回：シェル：コマンドラインへ入力されたコマンドを解釈、処理するシェルについて紹介する。補完、パイプ、リダイレクトなどの活用方法を学び、その実習を行う。</p> <p>第4回：シェルスクリプトと標準入出力：シェルスクリプトによる処理や標準入出力を組み合わせたコマンドラインでの処理について学び、その実習を行う。</p> <p>第5回：プログラムでの標準入出力：標準入出力を用いたPythonプログラムによるアプリケーションと、シェルスクリプトを用いた処理について学び、その演習を行う。</p> <p>第6回：コマンドアプリケーションの利用：コマンドラインで動作するアプリケーションを紹介し、複数のアプリケーションの連携や、シェルとの連携による処理の手法を学ぶ。</p> <p>第7回：オンラインサービスの利用：本学の学生が利用できるOffice 365やGmailなどのサービスについて紹介し、オンラインであることの利点を活用した利用方法について学ぶ。</p>			

<p>第8回：APIの利用：本額の学生が利用できるオンラインサービスにはAPIが利用できるものもある。 APIの仕組みと利用方法を学び、プログラムでの活用の実習を行う。</p> <p>第9回：コマンドラインによるpdfファイルのデータ取得と処理：これまでの内容の復習と実用的な事例として、多数のpdfファイルのデータ取得とファイル処理の実習を行う。</p> <p>第10回：コマンドラインによる画像ファイルのデータ取得と処理：これまでの内容の復習と実用的な事例として、多数の画像ファイルのデータ取得と処理の実習を行う。</p> <p>第11回：AI学習用データセットの作成：AIにおけるデータセットの重要性とその内容について紹介し、前回の画像ファイルの処理の発展として、AI学習用データセットの作成を行う。</p> <p>第12回：プログラムによるExcelファイルの作成：これまでの内容の復習と実用的な事例として、多数のファイルのデータ取得とそのデータの表計算ファイル化実習を行う。</p> <p>第13回：動画ファイルフォーマットとコマンドラインでの変換：これまでの内容の復習と実用的な事例として、多数の動画ファイルのデータ取得と編集、変換などの処理について実習を行う。</p> <p>第14回：遠隔操作について：ssh、リモートデスクトップなど遠隔操作について紹介し、操作について実習を行う。</p> <p>第15回：まとめ：大量のデータ加工、処理を中心としたコマンドラインでの操作方法などの学修を振り返り総括する。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜配布</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業の中で指示する課題のレポート80%、および、独自アプリケーション(20%)で評価する。成績評価システム(絶対的相対評価)により評価する。</p>

授業科目名： コンピュータアーキテクチャ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長沼 次郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ</p> <p>コンピュータアーキテクチャでは、スマートフォンからスーパーコンピュータまで現在のコンピュータに共通するアーキテクチャについて、基本的な構成や動作原理から様々な高速化法や記憶階層までを段階的に学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <p>様々な情報を扱うためのコンピュータリテラシーの習得を目標とする。具体的には、コンピュータが扱う様々な情報がどのように表現されるのか、どのように処理されるのか、どのように記憶されるのか、それらの機能がどのように実現（実装）されているのか、のコンピュータのハードウェア寄りの基礎を理解し、説明することができる。また、コンピュータを大学での研究に活かすことができる。具体的には、情報関係の用語と論理的な考え方を身に付け、コンピュータ利用の実践と問題解決や方法論の応用ができる。さらに、普段利用しているコンピュータがどのように実現されているか自ら考えることができ、将来どのようになるか予測することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アーキテクチャとは建築を意味する言葉で、コンピュータアーキテクチャは、コンピュータの（特にハードウェアにおける）基本設計の設計思想を表している。本講義では、まずコンピュータが扱う様々な情報がどのように表現されるのか、それらがどのように処理されるのか、またどのように記憶されるのか、の基礎を講述する。現在の大規模なコンピュータも基本となる極めて簡単な数種類の基本論理回路から構成されていることを学ぶ。次に、実際のコンピュータを例として、それらの機能がどのように実現されているかを示し、現在のコンピュータの基本機能や命令セットの仕組みを学ぶ。さらに、高速化の仕組みや記憶階層も紹介し、これまでの性能の推移とともに今後の技術トレンドについても講述する。一方、最先端の電気通信技術の実務経験を活かして、コンピュータや組込みシステムのより実用的で実際的な適用シーンについても講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コンピュータの基本構成と役割</p> <p>コンピュータの中心となる中央処理装置（CPU）とメモリ、周辺となるディスプレイとキーボードとマウスなどの役割を示す。</p> <p>第2回：コンピュータの種類と利用</p> <p>マイクロコンピュータからスーパーコンピュータまで、コンピュータの種類やOS種類、および利用用途を示す。</p>			

**第3回：データ表現：数の表現**

コンピュータの中では、全て「0」か「1」かの2進数で表現される。その数の表現を示し2進数と10進数の変換方法などを示す。

**第4回：データ表現：負数の表現**

2進数での「負数」の表現法として、加算や減算に有利でほとんど全てのコンピュータで採用されている2の補数表現を示す。

**第5回：データ表現：文字とコード**

コンピュータの中での文字の表現として、数字やアルファベットの場合と漢字を含む場合のコード体系を示す。

**第6回：論理回路：集合と演算**

コンピュータの2値論理を扱うブール代数と基本演算を示す。真理値表やベン図を用いてブール代数の公理や定理を証明する。

**第7回：基本論理回路と組み合わせ論理回路**

ブール代数を実現する実際の6つの基本回路として、論理否定、論理和、論理積、排他的論理和、否定論理和、否定論理積を示す。

**第8回：記憶回路**

記憶回路として、フリップフロップ（FF）と呼ばれる1ビットを記憶する回路を、ブール代数の公理と定理を用いて導出する。

**第9回：順序回路**

順序回路として、1ビットのFFを用いたレジスタやカウンタが構成できることを示す。また応用として状態遷移図も示す。

**第10回：プロセッサの基本機能と構成回路**

CPU（プロセッサ）の基本機能を紹介し、組合せ回路、記憶回路、順序回路から構成される、その機能を実現する構成回路を示す。

**第11回：命令セットプロセッサ**

命令セットは、プロセッサを動作させる基本（機械語）命令である。主な命令の種類と形式、またその命令のプロセッサ内部での動作の流れを示す。

**第12回：実際のCPU**

実際のCPUとして、現在でも利用されているインテルx86系プロセッサの構成と命令セットの概要を紹介する。

**第13回：高速化と記憶階層**

パイプライン・マルチコア化などの高速化や記憶階層を示し、またこれまでの性能の推移と今後の技術トレンドを示す。

**第14回：本講義の振り返り**

講義を振り返り、本講義の意味と内容全般を再確認する。

**第15回：本講義のまとめ**

全体の総復習と本講義全般の内容の重要点のまとめを行う。

テキスト
「コンピュータ概論 ハードウェア 改訂4版」橋本 洋志、小林 裕之、天野 直紀、中後 大輔 共著、オーム社、2018年 2,750円
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
毎回の授業の中で指示する課題2問のレポート（20%）、および、筆記試験（80%）で評価 する。成績評価システム（相対的絶対評価）により評価する。

授業科目名： IoTシステム開発	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 細川 康輝、芥川 正武、 橋爪 正樹
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：IoTデバイス作成に必要な知識・技能を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイコン・シングルコンピュータによる必要なセンサ値を取得・記録するシステムを提案できる。</li> <li>・センサ、電源、スイッチなどを装備したIoTデバイスを試作できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>IoTデバイスやそれを用いたシステムは、DXが進みつつある現在において中核となるものであり、その立案・試作は、社会に変革をもたらす可能性を有する。本講義では、「デザインエンジニアリング入門」「センサ・エレクトロニクス基礎」の学修内容を基に、実際の利用を想定し、必要となる技術を紹介し、簡単なセンサの値を取得するシステムの立案・試作を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション：授業概要などの説明後、IoT、AIなどの技術の社会実装の実例など、コンピュータ・ネットワークの進歩による社会の変化を紹介し、本講義で用いるPC、シングルボードコンピュータ、マイコン、Wi-Fi、AIなどの技術を説明する。また、本講義で作成するIoTデバイスの素案について紹介する。（担当：橋爪、細川、芥川）</p> <p>第2回：コネクタ・ネジ・ケーブルの規格：実際の装置を作成する場合に必要なコネクタ、ネジ、ケーブルなど規格とその加工方法を学修する。また、コネクタの作成演習も行う。（担当：細川、芥川、橋爪）</p> <p>第3回：基板の試作：複数の試作用回路基板の作成方法を説明し、その違いを学ぶ。（担当：細川、芥川、橋爪）</p> <p>第4回：筐体加工方法：IoTデバイスの試作に必要な基板や電源装置などを収める筐体の加工について、要となる工具・装置の取り扱い方を学ぶ。（担当：細川、芥川、橋爪）</p> <p>第5回：3DCADについて：CAD/CAM/CAEを統合したAutodesk Fusion360の使用方法を紹介し、CAD/CAM/CAEの説明とIoTデバイスの設計・シミュレーションに必要なソフトウェア利用について学ぶ。（担当：細川、芥川、橋爪）</p> <p>第6回：センサ固定具のモデリング：IoTデバイスにはセンサ、スイッチなどの固定に独自の形状が必要となることも多い。ここでは、3DCADを用いてセンサ固定具の設計、モデリングを通じて独</p>			

<p>自の形状の固定具のモデリング方法を学ぶ。(担当:細川、芥川、橋爪)</p> <p>第7回:3Dプリンタ:3DCADで作成したものを容易に実現する方法として、3Dプリンタが用いられるようになった。ここでは、作成した3Dモデルを3Dプリンタで実現するために必要な技術・操作方法を学ぶ。(担当:細川、芥川、橋爪)</p> <p>第8回:IoTデバイスの設計:「デザインエンジニアリング入門」「センサ・エレクトロニクス基礎」の学修内容および本講義のここまでの内容を基に、素案から具体的なセンサ情報を取得するIoTデバイスの提案を行う。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第9回:IoTデバイスのブレッドボードでの試作:提案したデバイスの回路をブレッドボード上で試し、動作の検証を行う。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第10回:IoTデバイスのユニバーサル基板での試作:ブレッドボード上で動作する回路をユニバーサル基板上で再現する。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第11回:IoTデバイスの筐体の試作。作成した回路を収める筐体の作成を行う。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第12回:IoTデバイスの動作確認:試作したデバイスの動作確認を実施し、設計通り動作することを確認する。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第13回:アプリケーション試作:試作したデバイスから送られるセンサ値を受け取り、活用するアプリケーションを作成する。(担当:芥川、細川、橋爪)</p> <p>第14回:アプリケーションの動作確認:作成したデバイスとアプリケーションが正しく動作するか検証する。(担当:橋爪、細川、芥川)</p> <p>第15回:まとめ:簡単なセンサの値を取得するシステムの立案・試作などの学修を総括する。定期試験(担当:橋爪、細川、芥川)</p>
<p>テキスト</p> <p>例題で学ぶやさしい電気回路 直流編(新装版) 堀 浩雄(著) 森北出版/978-4627735323</p> <p>Arduino IDEで作る! ESP32完全ガイド 福田 和宏(著)/978-4296205745</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>無し</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業の中で指示する課題のレポート(60%)、および、筆記試験(40%)で評価する。成績評価システム(絶対的相対評価)により評価する。</p>

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：戸川 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：計算機に命令を伝える基本技術を学び、論理的な問題解決力の基礎を養う。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Pythonを用いて基本的なプログラムを作成できる。</li> <li>・データの読み込み・保存やデータ構造の構成が可能なプログラムを作成できる。</li> <li>・基礎的なデータ処理や簡単な分析モデルを作成できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、Pythonを使用してプログラミングの基本スキルを発展させる入門科目である。データ型や基本構文からスタートし、少し高度なアルゴリズム設計、データ構造（リスト、辞書など）、ファイル操作、モジュールやパッケージ使用方法の実際を、演習課題を通じて習得する。さらに、AIやデータサイエンスの基礎として、データの前処理や簡単なデータ分析手法やPythonのライブラリ（scikit-learnなど）を活用して基本的なモデルの作成方法を学ぶ。この授業により、Pythonを使った問題解決力と、AI・情報システム分野の基礎知識を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 授業の目的、Pythonの役割、環境設定と基本操作を理解する。</p> <p>第2回：Pythonの基礎 データ型と変数の基礎について習得する。</p> <p>第3回：基本的な構文と制御構文 条件分岐とループ処理の基礎を理解し実装する。</p> <p>第4回：関数の基礎 関数の定義方法と使用方法を習得し、スコープの概念を理解する。</p> <p>第5回：リストと辞書の操作 リストと辞書の操作方法を習得し、内包表記の概念を理解する。</p> <p>第6回：ファイル操作 テキストファイル、及び、CSVファイルの入出力方法を習得する。</p> <p>第7回：アルゴリズムの基礎 ソート、探索アルゴリズムの基礎と実装を習得する。</p> <p>第8回：モジュールとパッケージ</p>			

<p>標準モジュールと外部ライブラリの使用方法を習得する。</p> <p>第9回：データの前処理</p> <p>Pandasを使用したデータの読み込みと基本的な前処理の実装方法を習得する。</p> <p>第10回：データ分析の基礎</p> <p>Matplotlibによる簡単なデータ可視化方法を習得する。</p> <p>第11回：機械学習の基礎（分類）</p> <p>scikit-learnを用いた基本的な分類モデルの構築方法を習得する。</p> <p>第12回：機械学習の基礎（回帰）</p> <p>簡単な回帰モデルの作成と実装方法を習得する。</p> <p>第13回：モデルの評価方法</p> <p>精度評価の基礎概念とscikit-learnでの評価実装方法を習得する。</p> <p>第14回：データ処理ワークフローの構築</p> <p>データの前処理からモデル構築までの流れをプログラム作成を通じて習得する。</p> <p>第15回：まとめ・定期試験</p> <p>これまでの課題と実習内容を再確認し、総合演習課題に取り組む。</p>
<p>テキスト</p> <p>高橋麻奈、ソフトバンククリエイティブ、「やさしいPython」、2,580円（税別）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回で提出を求める演習課題等の成果 70%、期末課題作成 30%</p>

授業科目名： データベース論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾崎 圭司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：</p> <p>データベースを設計・製作・運用・分析する知識とスキルを身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>本講義では、データベースシステムの基礎と応用について学習する。特に、関係データベースシステム、データモデル、スキーマ設計、SQLと問合せ等について学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、AI時代のデータサイエンスやネットワークシステムとの関わりを考慮し、データベース技術の基本から応用までを学ぶ。具体的には、データベースシステム、データモデルとは何か、リレーショナルデータモデル、一貫性制約、リレーショナル代数、正規化、SQL、データベース管理システムの標準アーキテクチャと機能、ビューサポート、ファイル編成とアクセス法、リレーショナルDBMSの質問処理とその最適化、トランザクションと障害回復、トランザクションの同時実行制御、分散型データベース管理システム、クライアントサーバコンピューティングとデータベース、ビッグデータNoSQL等について学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：データベース管理システムの機能</p> <p>データベース管理システム、概念モデル、論理モデル、データモデルについて学習する。</p> <p>第2回：リレーショナルデータモデル</p> <p>リレーションとリレーショナルデータモデル、第1正規形、主キー、外部キー、一貫性制約、概念モデル(実体-関連モデル)を論理モデル(リレーショナルモデル)に変換する方法について学習する。</p> <p>第3回：リレーショナル代数</p> <p>リレーショナル代数を構成する8個の演算のうち、和・差・共通・直積の集合演算、および射影・選択・結合・商の演算 について学習する。</p> <p>第4回：リレーショナルデータベースのスキーマ設計</p> <p>第1正規形・第2正規形・第3正規形を中心に、正規化について学習する。また、完全関数従属・推移的関数従属についても学習する。</p> <p>第5回：リレーショナルデータベース操作言語：SQL</p> <p>SQLの基本構文、SQLを使った質問における動作について学習する。</p>			

<p>第6回：データベース管理システムの標準アーキテクチャと機能</p> <p>ANSI / X3 / SPARC の DBMS の標準アーキテクチャ、3層スキーマ構造、DMBS の3大機能について学習する。</p> <p>第7回：ビューサポート</p> <p>ビューとは何か、ビューと論理的データ独立性、ビュー更新問題、SQLによるビュー更新について学習する。</p> <p>第8回：ファイル編成とアクセス法</p> <p>線形探索・2分探索・ブロック探索等の各種探索法、インデックス法・B+木・ハッシュ法等について学習する。</p> <p>第9回：リレーショナル DBMS の質問処理とその最適化</p> <p>質問処理のコストの推定と最適化について学習する。</p> <p>第10回：トランザクションと障害時回復</p> <p>トランザクションとは何か、障害時回復とログ法について学習する。</p> <p>第11回：トランザクションの同時実行制御</p> <p>トランザクションのスケジュールの直列化、ロック法について学習する。</p> <p>第12回：分散型データベース管理システム</p> <p>分散型 DBMS と、その質問処理・トランザクション管理について学習する。</p> <p>第13回：クライアント / サーバコンピューティングとデータベース</p> <p>クライアントサーバシステム、3階層クライアントサーバシステムについて学習する。</p> <p>第14回：ビッグデータと NoSQL</p> <p>ビッグデータとは何か、NoSQL、ビッグデータの活用技術について学習する。</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>本講義全体をまとめ、各学習項目の関連を俯瞰し、データベースシステムに関する一貫した知識を持てるようにする。</p> <p>定期試験</p> <p>本講義で学んだことをどれだけ修得したか、筆記試験で確認する。特に、データベースの設計と作成、SQL を中心に全分野から出題する。</p>
<p>テキスト</p> <p>増永良文・サイエンス社「リレーショナルデータベース入門 第3版」3,200円(税別)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>高橋麻奈・SBクリエイティブ「やさしいPython」2,580円(税別)</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験(期末テスト、筆記)と課題(データベースの設計・作成等)の成果物によって評価する。</p>

授業科目名： AI・情報システムプロジェクト演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 充郎、戸川 聡、 石田 基宏 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
<p>授業のテーマ</p> <p>AIと情報システムの実社会での応用力を高めることを目指し、プログラミングなどの知識と技術を活用して課題解決のプロジェクトに取り組む。</p> <p>到達目標</p> <p>システム開発の実業務を想定し、各工程を実施できるようになること。さらに、次のことができるようになること。</p> <p>(1) ソフトウェア開発の目標・課題設定ができる。</p> <p>(2) 不明なことは主体的に探求して自ら解決できる。</p> <p>(3) 自分が開発したシステムの特長について効果的にプレゼンテーションできる。</p> <p>(4) 不測の事態が生じて、状況を的確に把握しプロジェクトに影響がないように対処できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>AI・情報システムコースの必修科目で、これまでの学びを集大成する実践的な授業である。学生はこれまでに修得したプログラミングなどの知識と技術を活用して、課題解決のプロジェクトに取り組む。プロジェクトはチームで進め、問題定義から解決策の設計、実装、評価までの一連のプロセスを経験する。各チームは所定の要件に基づいたシステムやアプリケーションを開発し、成果をプレゼンテーションして評価を受ける。この演習を通じて実践的なスキルを養い、AIと情報システムの実社会での応用力を高めることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・受講環境整備</p> <p>授業計画・評価方法・授業内容の概要等について説明する。演習のチーム分けを行う。授業全体に係わる内容なので必ず出席すること。（担当：池田、戸川、石田）</p> <p>第2回：システム開発の変遷 - 従来型開発モデル -</p> <p>ウォーターフォールに代表される従来型開発モデルについて紹介する。従来型開発モデルの難点、モダン開発モデル発案の理由について学修する。（担当：池田、戸川、石田）</p> <p>第3回：現在主流のシステム開発手法 - アジャイルモデル以降 -</p> <p>適応的開発手法であるアジャイルについて学修するとともに、スパイラルモデルをはじめとするその他の開発手法について学修する。（担当：池田、戸川、石田）</p> <p>第4回：プロジェクト管理</p> <p>プロジェクト管理について基本的な考え方を学修するとともに、プロジェクト管理手法とフ</p>			

レームワークについて学修する。(担当：池田、戸川、石田)

第5回：プロジェクト立案と課題設定 - サーベイと既存サービスの評価 -

開発システム立案のための素地として、有用な技術を調査するとともに、既存の類似サービスを調査・分析する。(担当：池田、戸川、石田)

第6回：プロジェクト立案と課題設定 - 開発計画立案と役割分担 -

これまでの学修内容を受けて開発システムの仕様を決定する。チーム内の役割分担と進捗計画を立案する。(担当：池田、戸川、石田)

第7回：実装とプロジェクト管理 (1)

チームで開発作業を実施する。授業の事前・事後においてもチームで協力して進める。(担当：池田、戸川、石田)

第8回：実装とプロジェクト管理 (2)

チームで開発作業を実施する。授業の事前・事後においてもチームで協力して進める。教員から進捗に関して確認を行う。(担当：池田、戸川、石田)

第9回：実装とプロジェクト管理 (3)

チームで開発作業を実施する。授業の事前・事後においてもチームで協力して進める。講義時間においては教員から進捗に関してフィードバックを実施する。(担当：池田、戸川、石田)

第10回：実装とプロジェクト管理 (4)

チームで開発・改善作業を実施する。授業の事前・事後においてもチームで協力して進める。講義時間においては教員から進捗に関してフィードバックを実施する。(担当：池田、戸川、石田)

第11回：中間報告

開発システムの概要とここまでのプロジェクト進捗を発表する。(担当：池田、戸川、石田)

第12回：成果報告準備とブラッシュアップ (1)

最終成果報告に向けて開発・フィードバック・改善を繰り返す。(担当：池田、戸川、石田)

第13回：成果報告準備とブラッシュアップ (2)

最終成果報告に向けて開発・フィードバック・改善を繰り返し、まとめる。(担当：池田、戸川、石田)

第14回：成果報告・発表

これまでの開発成果をチームごとに発表する。成果物を効果的にプレゼンテーションするための方法を学修する。(担当：池田、戸川、石田)

第15回：まとめ

学修内容のまとめを実施する。併せて各チームの開発作業・成果発表の講評を実施する。(担当：池田、戸川、石田)

テキスト

初回のガイダンス時に伝える。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題の達成度（60%）、チームにおける貢献度（40%）から評価する。

貢献度等の評価においては取り組みの積極性、協調性を重視する。

授業科目名： クラウドネットワーキング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：戸川 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：クラウドと情報通信ネットワークの基本概念と実践的応用を見据えた基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドサービスの種類や用途を説明できる。</li> <li>・クラウドリソースの基本的な設定や管理方法を説明できる。</li> <li>・クラウド環境におけるセキュリティと可用性確保のための基礎技術を理解できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、コンピュータネットワークの基本概念から実践的な技術までを網羅的に解説する。OSI参照モデルおよびTCP/IPスタックといった基礎から、IPアドレッシング、ルーティングやスイッチング技術、主要な通信プロトコルの役割と動作、セキュリティ対策に至るまで、ネットワーク構築と運用の理解に欠かせない基礎的知識を学ぶ。また、各種プロトコルの仕組みや利用方法を深く理解し、データ伝送の効率化やネットワーク性能の最適化についても触れ、理論の上に立脚する実践的な解説を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：クラウドコンピューティングの基礎 クラウドの基本概念と歴史、クラウドコンピューティングの利点と課題を理解する。</p> <p>第2回：クラウドサービスの種類 IaaS、PaaS、SaaSの違いと概念を理解する。</p> <p>第3回：クラウドアーキテクチャ クラウドアーキテクチャの構成要素と機能を学ぶ。</p> <p>第4回：仮想化技術の基礎 仮想マシン、コンテナ、仮想ネットワークの基本概念を理解する。</p> <p>第5回：クラウドセキュリティの基礎 クラウド環境でのデータ保護、アクセス管理、セキュリティリスクの基礎を理解する。</p> <p>第6回：リソース管理とスケーラビリティ リソースの動的管理とスケーラビリティの確保について理解する。</p> <p>第7回：クラウド上でのデータストレージ ストレージサービスの種類とデータ管理の方法を学ぶ。</p> <p>第8回：可用性の確保 冗長性、フェイルオーバーなど、クラウドにおける可用性の確保方法を学ぶ。</p>			

**第9回：ネットワーク基礎**

クラウド環境におけるネットワークの基本的な設定と管理方法を理解する。

**第10回：クラウドのアクセス制御とアイデンティティ管理**

アクセス制御（IAM）とアイデンティティ管理の概念を理解する。

**第11回：クラウドサービス構築の実際（AWS）**

AWSを用いた基本的なリソースの設定と管理について理解する。

**第12回：クラウドサービス構築の実際（GCP）**

GCPを用いた基本的なリソースの設定と管理について理解する。

**第13回：クラウドにおけるネットワークの実際**

実際のクラウド環境を題材としてネットワーク設定を理解する。

**第14回：クラウド管理の自動化**

IaC（Infrastructure as Code）の概念と基本的なツールを使用したリソース管理の自動化について理解する。

**第15回：まとめ・定期試験**

講義と実習内容を再確認し、基礎的なクラウドネットワークの知識を振り返る。

**テキスト**

竹下隆史 他・オーム社「マスタリングTCP/IP入門編（第6版）」2,200円（税別）

**参考書・参考資料等**

適宜紹介する。

**学生に対する評価**

各回で提出を求める演習課題等の成果 30%、期末試験 70%

授業科目名： クラウドネットワーク ング応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：戸川 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：クラウドと情報通信ネットワークの高度な技術と運用知識を深化させる。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドネットワークの設計・トラフィック管理・負荷分散を理解できる。</li> <li>・クラウド環境におけるセキュリティとプライバシー保護技術を理解し、適切に応用できる。</li> <li>・クラウド上でのAIモデルのトレーニング・デプロイ手法を理解できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、クラウドコンピューティングの応用技術と実務でのネットワーク構築および運用スキルを深める科目である。クラウド環境でのネットワーク設計、トラフィック管理、負荷分散、バックアップ・リカバリ戦略、クラウドセキュリティの強化に加え、機械学習のトレーニングと推論の効率化、AIモデルのスケラブルなデプロイ手法についても取り扱う。また、実務で活用される自動化ツールやクラウドリソースの最適化手法、クラウド環境でのモニタリングやトラブルシューティングに関する技術も学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：クラウドネットワーク設計の応用 クラウド環境での高度なネットワーク設計の考え方と構成要素を理解する。</p> <p>第2回：トラフィック管理と最適化技術 トラフィックの最適化手法、ネットワークパフォーマンス向上の技術を理解する。</p> <p>第3回：クラウドにおける負荷分散技術 負荷分散の仕組みと設定方法、ロードバランサーの種類と応用につき理解する。</p> <p>第4回：バックアップとリカバリ戦略の応用 災害対策を含むバックアップ方法、クラウド環境でのデータリカバリ戦略を理解する。</p> <p>第5回：クラウドセキュリティの応用と強化 IAMの応用、ゼロトラストセキュリティ、アクセス制御とログ管理を理解する。</p> <p>第6回：データプライバシー保護とコンプライアンス データプライバシー保護技術、GDPRなどの規制に対する対応を理解する。</p> <p>第7回：ネットワークモニタリングとトラブルシューティング クラウド環境でのネットワーク監視手法、トラブルシューティング技術につき理解する。</p> <p>第8回：自動化によるインフラ管理 IaCツール（Terraform、CloudFormation）の応用と高度なクラウド管理手法を理解する。</p>			

**第9回：クラウドでの機械学習トレーニング最適化**

クラウド上での機械学習モデルのトレーニング方法、効率化手法やリソース管理を学ぶ。

**第10回：AIモデルのスケラブルなデプロイ手法**

クラウド環境でのAIモデルのデプロイ方法、スケラブルな実装や運用管理を学ぶ。

**第11回：AWSでの高度なネットワーク設計と実装**

AWSのネットワーク構成と負荷分散、トラフィック管理の設計概念を学ぶ。

**第12回：AWSでのセキュリティ強化と自動化**

AWS上でのセキュリティ強化やリソースの自動管理の概念を理解する。

**第13回：クラウド環境でのパフォーマンス最適化実習**

AWSによるパフォーマンスモニタリングと最適化手法を理解する。

**第14回：トラブルシューティングと事例分析**

クラウドのトラブルシューティングのケーススタディと問題解決の実際を学ぶ。

**第15回：まとめ・定期試験**

講義と実習内容を再確認し、高度なクラウドネットワーキングの知識を振り返る。

**テキスト**

竹下隆史 他・オーム社「マスタリングTCP/IP入門編（第6版）」2,200円（税別）

**参考書・参考資料等**

適宜紹介する。

**学生に対する評価**

各回で提出を求める演習課題等の成果 30%、期末試験 70%

授業科目名： コンピュータネットワーク論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 戸川 聡、尾崎 圭司 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：情報通信ネットワークの基本原則から応用プロトコルまでを統合的に学ぶ</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータネットワークの基本概念や各種プロトコルの役割を説明できる。</li> <li>・MACアドレス、およびイーサネットの機能を説明できる。</li> <li>・IPアドレス、およびIPの機能（経路制御、分割処理と再構築）について説明できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、コンピュータネットワークの基本概念から実践的な技術までを網羅的に解説する。OSI参照モデルおよびTCP/IPスタックといった基礎から、IPアドレッシング、ルーティングやスイッチング技術、主要な通信プロトコルの役割と動作、セキュリティ対策に至るまで、ネットワーク構築と運用の理解に欠かせない基礎的知識を学ぶ。また、各種プロトコルの仕組みや利用方法を深く理解し、データ伝送の効率化やネットワーク性能の最適化についても触れ、実践的な解説を行う。</p> <p>（戸川 聡、担当内容：各回における講義内容の実践的な適用側面からの講義解説） （尾崎圭司、担当内容：各回における講義内容の理論的側面からの講義解説）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ネットワークの概要と重要性 ネットワークの基本概念、インターネットの役割と重要性について学ぶ。（担当：戸川、尾崎）</p> <p>第2回：OSI参照モデル OSI参照モデルの各層の役割と機能を詳細に学び、レイヤ別に重要なプロトコルを学ぶ。（担当：戸川、尾崎）</p> <p>第3回：TCP/IPプロトコルスタック TCP/IPモデルの基本構造と各レイヤのプロトコル（IP、TCP、UDP）の役割を理解する。（担当：戸川、尾崎）</p> <p>第4回：主要なアプリケーション層プロトコル HTTP、HTTPS、FTP、SMTP、DNSなど、アプリケーション層で利用されるプロトコルの仕組みと用途を学ぶ。（担当：戸川、尾崎）</p> <p>第5回：IPアドレッシングとサブネット化 IPアドレスの構造、サブネットの仕組み、CIDR表記について学ぶ。（担当：戸川、尾崎）</p>			

#### 第6回：ルーティングプロトコルの基礎

ルーティングの基本的な考え方に加え、RIP、OSPFなどの主要ルーティングプロトコルの動作を学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第7回：トランスポート層プロトコルの詳細

TCPとUDPの違いや各プロトコルの特性、フロー制御とエラー制御の仕組みを学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第8回：スイッチング技術とレイヤ2プロトコル

イーサネット、ARP、VLANなど、スイッチング技術とレイヤ2プロトコルの役割を学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第9回：通信プロトコルの解析と理解

パケット解析ツールによるプロトコル解析結果を提示しながら、各プロトコルの実質的ふるまいと注意点を学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第10回：ネットワークセキュリティと暗号化プロトコル

ネットワークセキュリティの基礎と、TLS、IPsec、VPNなどの暗号化プロトコルを学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第11回：ファイアウォールとアクセス制御

ファイアウォールやアクセス制御リスト (ACL) の役割と設定について学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第12回：データ伝送の効率化

ネットワーク上でのデータ伝送を効率化する方法と、その重要性について学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第13回：ネットワーク性能の最適化

帯域管理、遅延やジッタ対策など、ネットワークパフォーマンスの最適化に関する技術を学ぶ。(担当：戸川、尾崎)

#### 第14回：次世代ネットワーク技術と将来展望

5G、IoT、SDNなど、次世代のネットワーク技術についての基本概念と展望を理解する。(担当：戸川、尾崎)

#### 第15回：まとめ・定期試験

応用問題を通じてこれまでの学びを確認し、実務的なネットワークスキルを振り返る。(担当：戸川、尾崎)

#### テキスト

竹下隆史 他・オーム社「マスタリングTCP/IP入門編 (第6版)」2,200円 (税別)

参考書・参考資料等：適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

各回で提出を求める課題等の成果 30%、期末試験 70%

授業科目名： マルチメディア入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 充郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ</p> <p>デジタルメディアの学修を進めるために必要となる複合的なメディアコンテンツについて基礎的な知識と技術を修得する。</p> <p>到達目標</p> <p>動画や音声などマルチメディアを扱う基礎的な知識と技術の修得を目標とする。具体的にはマルチメディアの特徴や仕組みを理解するとともに、それらを支えるコンピュータとインターネットの仕組みを理解し、マルチメディアの情報がどのように処理、伝達、表現されているかを理解し、説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>デジタルメディアに関する学修を進める上で基盤となる必修科目であり、画像、音声、動画、テキストなどの複合的なメディアコンテンツを扱う基礎的な知識と技術を学ぶ。具体的には、マルチメディアの概念・特徴から始まり、コンテンツ制作のためのメディア処理、マルチメディアを扱うハードウェア/ソフトウェア、インターネットと社会に広がるマルチメディア技術などを取り扱う。さらに、メディアコンテンツがどのように情報を伝達し、表現されているかについても事例を通じてその理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：マルチメディアとは</p> <p>文字、数字、音声、画像、映像などのマルチメディアの特徴、および、表現や伝達の形態について学ぶ。</p> <p>第2回：マルチメディアの基礎技術</p> <p>アナログとデジタル、デジタル化、ヒューマンインタフェースについての基礎的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>第3回：メディア処理：ファイルとテキスト、文書</p> <p>コンテンツ制作のためのメディア処理について、ファイルやテキスト、文書を扱うための基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>第4回：メディア処理：音声</p> <p>コンテンツ制作のためのメディア処理について、音声を扱うための基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>第5回：メディア処理：画像</p> <p>コンテンツ制作のためのメディア処理について、画像を扱うための基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>第6回：メディア処理：動画</p> <p>コンテンツ制作のためのメディア処理について、動画を扱うための基礎知識と技術を学ぶ。</p>			

第7回：メディア処理：3次元CG

コンテンツ制作のためのメディア処理について、3次元CGを扱うための基礎知識と技術を学ぶ。

第8回：メディア処理：Webページ

コンテンツ制作のためのメディア処理について、Webページを扱うための基礎知識と技術を学ぶ。

第9回：コンピュータの構成：ハードウェア

マルチメディアを扱う機器やコンピュータについて、ハードウェアの構成やその仕組みを学ぶ。

第10回：コンピュータの構成：ソフトウェア

マルチメディアを扱う機器やコンピュータについて、ソフトウェアの構成やその仕組みを学ぶ。

第11回：社会に広がるマルチメディア：インターネットの仕組み

社会へのマルチメディアの広がりを支えるインターネットについてその仕組みを学ぶ。

第12回：社会に広がるマルチメディア：インターネットと無線通信

スマートフォンやタブレットなどのモバイル通信をはじめとする無線通信の基礎知識や技術について学ぶ。

第13回：社会に広がるマルチメディア：インターネット・サービス

WWWや電子メールなどインターネットで提供されるサービスについて学ぶ。

第14回：社会に広がるマルチメディア：放送（ブロードキャスト）

地上デジタル放送など、映像や音声コンテンツを視聴者に届ける放送サービスについて学ぶ。

第15回：本講義のまとめ・試験

講義全体のまとめと試験を行う。

テキスト

入門マルチメディア [第二版]、画像情報教育振興協会、ISBN: 978-4903474670

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業の中で指示する課題のレポート（30%）、および試験（70%）で評価する。  
成績評価システム（相対的絶対評価）により評価する。

授業科目名： 映像メディア論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 耕司、池田 充郎 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：映像表現技術及び放送とメディアを取り巻く現状を理解し、映像制作の基礎を学ぶ</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信と放送の現状を理解するとともに、映像コンテンツの見方及び見る目を養うことができる。</li> <li>・ NHKと民放のそれぞれにおける番組制作の状況を知り、CM広告ビジネスについて理解することができる。</li> <li>・ 映像を制作するにあたり、その手順やポイントを知り、映像制作の基礎を理解することができる。</li> <li>・ 映像・音響の品質評価法及び4K /8K・HDRといった高精細・広色域の技術進歩を理解することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>コンピュータやデジタルビデオカメラが一般に普及したこととともなって、個人で高画質な映像表現ができるようになってきている。同時にブロードバンド環境が整う中、デジタルビデオ作品がストリーミング技術などを利用してインターネット上で数多く発信されている。本授業では、映像表現とその記憶・伝達方式を理解し、放送を取り巻く状況の変化や現状、番組制作とCM広告、映像制作の基礎について学ぶ。本科目は、映像コンテンツとそのビジネスについて学習を進めていく上での入門科目である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：映像とは何か（担当：山本、池田）</p> <p>第2回：映像表現・コンテンツの可能性（担当：山本）</p> <p>第3回：放送の現状と課題（担当：山本）</p> <p>第4回：番組スポンサーとコマーシャル（担当：山本）</p> <p>第5回：番組制作とその編成（担当：山本）</p> <p>第6回：映像コンテンツの制作準備（シナリオ、予算、工程）（担当：山本）</p> <p>第7回：収録について（カメラのしくみ）（担当：山本）</p> <p>第8回：収録について（カメラワーク）（担当：山本）</p> <p>第9回：収録について（照明、録音）（担当：山本）</p> <p>第10回：編集について（ノンリニア編集）（担当：山本）</p>			

第11回：映像システムと規格（記録、配信、表示）（担当：山本）

第12回：映像関係者にとっての著作権、映画の楽しみ方（担当：山本）

第13回：映像・音響品質評価（担当：池田）

第14回：高精細メディア技術（担当：池田）

第15回：まとめ（担当：山本、池田）

テキスト

授業時に伝える

参考書・参考資料等

授業時に伝える

学生に対する評価

毎回の授業に取り組む姿勢とレポート・試験等により総合的に評価する。

授業科目名： 映像撮影基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中有里、児島知樹 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：ビデオカメラでの撮影方法の基礎と映像表現技術</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの各種設定とその効果を理解し、意図する映像表現を実現することができる。</li> <li>・各設定の調整を通じて映像表現の技術を身につけることができる。</li> <li>・業務用カメラ操作の実践的なスキルを養い、撮影の基礎技術を習得できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>本科目は、業務用ビデオカメラを使用して高精細な映像を撮影するためのスキルを習得する。カメラの特性を理解し、シャッタースピード、感度、アイリス（絞り）の調整、ホワイトバランスの設定、被写界深度の活用などの基本的な要素を学ぶ。そして、これらが映像にどのような影響を与えるかを理論的に学んだ後、実践的な演習を通じてそれぞれの設定を適切に調整し、意図する映像表現を実現する技術を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 講義の概要、進め方、成績評価等についてやビデオカメラの構造などについて説明する。 (担当：田中、児島)</p> <p>第2回：三脚の立て方とカメラポジション 三脚の立て方やカメラポジション、アングルについて説明する。(担当：田中、児島)</p> <p>第3回：フォーカス ピントの合わせ方やフォーカスを活用した撮影方法（ピン送りなど）について説明する。 (担当：田中、児島)</p> <p>第4回：撮影練習及び撮影内容確認（1） 三脚の立て方やアングル、フォーカスを意識した撮影練習を行う。(担当：田中、児島)</p> <p>第5回：露出 場面に応じた適切なシャッタースピード、ISO、アイリスの設定について説明する。(担当：田中、児島)</p> <p>第6回：ホワイトバランスの理解と調整 ホワイトバランスの基礎と映像の色温度について学び、光源に応じたホワイトバランス設定</p>			

<p>を実践する。（担当：田中、児島）</p> <p>第7回：被写界深度の活用</p> <p>被写界深度を活用した撮影方法について実践する。（担当：田中、児島）</p> <p>第8回：撮影練習及び撮影内容確認（2）</p> <p>露出、ホワイトバランスを意識した撮影練習を行う。（担当：田中、児島）</p> <p>第9回：光の使い方とライティングの基礎</p> <p>環境に応じたライティング方法について説明する。（担当：田中、児島）</p> <p>第10回：光の使い方とライティングの応用</p> <p>屋内や室内での撮影を自然光や照明を考慮しながら実践する。（担当：田中、児島）</p> <p>第11回：撮影方法の理解と実践</p> <p>様々な撮影方法（パン、ティルト、ロール、フォロー）について学び、実践する。（担当：田中、児島）</p> <p>第12回：音収録について</p> <p>シーンに応じた適切な音録りの手法について説明する。（担当：田中、児島）</p> <p>第13回：機材操作確認</p> <p>機材操作の理解度を確保するため試験（実技）を行う。（担当：田中、児島）</p> <p>第14回：作品制作</p> <p>撮影した素材を使用し、カット編集での短編映像を制作する。（担当：田中、児島）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>全体の振り返り、理解度確認（筆記）を行う。（担当：田中、児島）</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業に取り組む姿勢（40%）と試験（60%）で評価する。</p>

授業科目名： 映像制作演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中有里、児島知樹、 近藤明子
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：映像制作プロセスの理解と映像制作			
到達目標：			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオや絵コンテを書くことができる</li> <li>・テーマに沿った映像を制作することができる</li> </ul>			
授業の概要			
<p>本科目は、グループでの映像制作を通じて、作品の企画から完成までの全プロセスを学ぶ実践的な科目です。受講生はチームで協力しながら、まず企画を立案し、映像の構成を考えます。次に、撮影技術を駆使して映像素材を収集し、編集作業を通じて作品を完成させます。制作過程では、創造的なアイデアを具体化するスキルやチームワークの重要性も学び、映像作品のクオリティを高めるための実践的な技術を習得します。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。また、課題のテーマについてディスカッションしましょう。（担当：田中、児島、近藤）			
第2回：映像の企画・構成・テーマ設定・シナリオ作成			
指定した課題について各班でテーマを決定し、それに沿った内容で構成を考え映像のシナリオを作成しましょう。（担当：田中、児島、近藤）			
第3回：絵コンテ作成			
作成したシナリオに基づき、撮影編集のための絵コンテを作成しましょう。（担当：田中、児島、近藤）			
第4回：絵コンテチェック・スタッフ編成			
課題作品の制作のため、絵コンテのチェック、見直しを行い、各班で、スタッフ編成を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）			
第5回：カメラの基本操作			
カメラの基本操作（シャッタースピード、絞り、ISO感度、ホワイトバランス）や構図（フレーミング）について学び、カメラワークの練習を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）			

**第6回：音録り**

撮影における音録りの重要性や注意点を理解するとともに、場面に応じた音録りの方法、必要な機材等について学習しましょう。また、実践で音録りを意識した動画の撮影を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第7回：照明**

基本的な照明の使い方やそれを活かす方法を学び、適したライティングの方法での撮影を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第8回：絵コンテチェック・スタッフ編成・ロケハン**

課題作品の制作のため、絵コンテのチェック、見直しを行い、各班で、スタッフ編成を行いましょう。さらに、絵コンテに基づきロケハンを行い、必要となる機材等の準備を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第9回：演出とリハーサル**

課題作品の撮影前に、全体の構成、ストーリー展開を考慮し、作品のテイストに合った演出を検討し、リハーサルを行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第10回：屋外撮影**

動画の撮影の内、絵コンテに基づき、屋外のシーンについてカメラアングルやライティング、音声を考慮しながら撮影を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第11回：屋内撮影**

動画の撮影の内、絵コンテに基づき、屋内のシーンについてカメラアングルやライティング、音声を考慮しながら撮影を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第12回：編集(取り込み、粗編集)と追加撮影**

撮影した素材を用い、課題作品の粗編集を行いましょう。さらに、粗編を受け、足りない画、撮り直す必要がある画を洗い出し、必要であれば追加撮影を行いましょう。その必要がない場合は、引き続き、編集作業を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第13回：編集(色調整、テロップ挿入)**

カラーグレーディングやテロップ挿入の方法を学び編集を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第14回：編集(BGM・効果音選択と整音)**

BGMや効果音の効果的な使用方法や整音（音量調整、ノイズ除去など）について学び編集を行いましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**第15回：上映会**

作品の上映会を行います。各作品を鑑賞した上で、ディスカッションを行いましょう。そして、上映会で指摘された点、気付いた点を考慮した上で、作品を手直ししましょう。（担当：田中、児島、近藤）

**テキスト**

適宜紹介する

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

作品の完成度60点、授業への取組と作品への貢献度40点で評価を行う。

授業科目名： ゲームプログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：辻岡 卓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：先行科目「ゲームデザイン」で学んだ概念を実際に形にする。</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)自身の企画したゲームを途中で挫折することなく完成させることができる。</p> <p>(2)制作したゲームを効果的にアピールすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ユーザの「楽しい経験」を最大化することを目標としてゲームを制作する。企画・立案にはじまり、それを実装するための制作活動、成果物であるゲームを発表するに至るまでのプロジェクト管理を主体的に学習する。ゲームを1本作り上げることでプログラミングのみならず幅広い経験を得ることを狙いとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 本講義の目標とモデルプラン</p> <p>第2回：企画・立案 ゲームテーマ設定と必要な要素・技術の細分化</p> <p>第3回：プロトタイプ制作(1) 基軸部分の制作</p> <p>第4回：プロトタイプ制作(2) 基軸部分の制作続き</p> <p>第5回：プランニング リソースの把握と最終目標設定</p> <p>第6回：ライトニングレポート(1) 企画案、基軸部分、進捗予定、最終目標をプレゼンテーション</p> <p>第7回：制作(1) プロトタイプをもとにギミック制作</p> <p>第8回：制作(2) ギミック部分完成</p> <p>第9回：ライトニングレポート(2) 進捗状況をプレゼンテーション</p> <p>第10回：制作(3) 素材(3Dモデル、音源等)制作</p> <p>第11回：制作(4) 素材インポート</p> <p>第12回：ライトニングレポート(3) 進捗状況をプレゼンテーション</p> <p>第13回：制作(5) テスト</p> <p>第14回：制作(6) ブラッシュアップ</p> <p>第15回：試遊とフィードバック 相互にゲームを試遊し、その感想をフィードバックする。</p>			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 ライトニングレポートの内容、第15回時点のゲームの出来・アピールから総合			

的に判断する。

授業科目名： 3DCG・AR/VR演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 辻岡卓、鈴木直美 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：AR/VR空間およびそこに配置する3DCGを制作する。</p> <p>到達目標は以下のとおり。</p> <p>(1)自身のアイデアを3DCGで表現できる。</p> <p>(2)AR/VR空間を効果的に提示できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は先行科目「AR/VR・CGデザイン」で学んだ理論をもとにAR/VR空間およびそこに配置する3DCGを制作する演習科目である。自身のデザインアイデアを具体的なコンテンツとして実装する。AR/VR/3DCGの特性を活用し、提案したい訴求内容を十分に表現できる能力を身につけることを目指す。先行科目で学習した3DCG、ゲームエンジン等の技術をフルに活用しメディア・インタラクティブアートを制作する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第2回：VRプラットフォーム 各種VRプラットフォームを概説する。（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第3回：ARアプリ構築(1) ごく簡単なARアプリ制作（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第4回：ARアプリ構築(2) 物理オブジェクトに対応したARアプリ制作（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第5回：メタバースとデジタルツイン 定義、既存のサービス・ユースケースの紹介（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第6回：企画・立案 コンセプト設定と必要な要素・技術の細分化（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第7回：プロトタイプ制作 基軸部分の制作（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第8回：プランニング リソースの把握と最終目標設定（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第9回：制作(1) プロトタイプをもとにしたギミック部分制作（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第10回：制作(2) ギミック部分完成（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第11回：ライトニングレポート(1) 進捗状況をプレゼンテーション（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第12回：制作(3) 素材（3Dモデル、点群、splat、音源）の制作（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第13回：制作(4) 素材のインポート（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第14回：制作(5) 最終ブラッシュアップ（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>第15回：発表会 相互にコンテンツを体験し、感想をフィードバックする。（担当：辻岡、鈴木）</p> <p>テキスト</p>			

特になし。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 ライトニングレポートの内容、第15回時点のコンテンツの出来・アピールから総合的に判断する。

授業科目名： 情報科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長井 映雄
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：</p> <p>本講義は、教員免許「情報」を取得しようとする者を対象とする。「情報」に関する専門知識や技能を持つことは前提条件であるが、教員にはそれに加えて、生徒に分かりやすく指導し、学習を支援できる力量が求められる。本講義では、情報科教育の目標や学習指導法を理解し、実際の授業設計・実践に必要な指導力を養成することを目的とする。</p> <p>到達目標：</p> <p>高等学校共通教科「情報」に関する学習指導要領の目標を理解し、授業方法ならびに指導と評価の意義を把握することを目指す。さらに、学習指導案の作成や教材研究に取り組むことで、題材設定や教材化の視点を養い、授業実践に活かす力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、高等学校普通教科「情報I・II」における学習目標について理解を深めるとともに、学習内容の特質を踏まえて効果的な学習指導と学習評価の在り方を学ぶ。これらの学びを基盤として、学習指導案の作成や教材研究に基づくプレゼンテーションを行い、授業実践に直結する指導力の育成を図る。</p>			
授業計画			
第1回：情報科教育の背景			
第2回：情報科教育の体系と構成			
第3回：情報 I、情報 IIの学習目標			
第4回：情報 I「情報社会の問題解決」に関する学習内容、授業方法、および、教材研究			
第5回：情報 I「コミュニケーションと情報デザイン」に関する学習内容			
第6回：情報 I「コミュニケーションと情報デザイン」に関する授業方法、および、教材研究			
第7回：情報 I「コンピュータとプログラミング」に関する学習内容			
第8回：情報 I「コンピュータとプログラミング」に関する授業方法、および、教材研究			
第9回：情報 I「情報通信ネットワークとデータの活用」に関する学習内容			
第10回：情報 I「情報通信ネットワークとデータの活用」に関する授業方法、および、教材研究			
第11回：学習指導と学習評価			
第12回：学習指導案および教材の作成			
第13回：教材研究プレゼンテーション（Aグループ）			

第14回：教材研究プレゼンテーション (Bグループ)

第15回：授業のまとめと今後の課題

テキスト

「情報 I Step Forward!」 赤堀 侃司、東京書籍、2026

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「情報編」（文部科学省）

高等学校情報科「情報I」教員研修用教材 文部科学省

高等学校情報科「情報II」教員研修用教材 文部科学省

学生に対する評価

確認テスト40%、学習指導案作成・教材研究プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

授業科目名： 情報科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長井 映雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：</p> <p>本講義では、「情報科教育法Ⅰ」での学びを踏まえ、高等学校学習指導要領に基づいた教育方法について考察する。さらに、学習指導案の作成や教材研究に取り組み、教育実習へとつながる実践的な指導力の養成を目指す。</p> <p>到達目標：</p> <p>情報教育に関する学習指導要領の目標を理解するとともに、授業方法および指導と評価の意義を把握することを目指す。また、学習指導案の作成や教材研究に主体的に取り組むことで、指導者として必要とされる能力を習得する。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、高等学校共通教科「情報Ⅱ」および専門教科「情報」の各科目における学習目標について理解を深めるとともに、学習内容の特質を踏まえて効果的な学習指導と学習評価の在り方を探究する。これらの学びを基盤として、学習指導案の作成や教材研究に基づくプレゼンテーションに取り組み、授業実践に結び付く指導力の育成を目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：情報科の設置と変遷</p> <p>第2回：専門教科情報科の各科目</p> <p>第3回：情報Ⅱ「情報社会の進展と情報技術」に関する学習内容、授業方法、および、教材研究</p> <p>第4回：情報Ⅱ「コミュニケーションとコンテンツ」に関する学習内容</p> <p>第5回：情報Ⅱ「コミュニケーションとコンテンツ」に関する授業方法、および、教材研究</p> <p>第6回：情報Ⅱ「情報とデータサイエンス」に関する学習内容</p> <p>第7回：情報Ⅱ「情報とデータサイエンス」に関する授業方法、および、教材研究</p> <p>第8回：情報Ⅱ「情報システムとプログラミング」に関する学習内容</p> <p>第9回：情報Ⅱ「情報システムとプログラミング」に関する授業方法、および、教材研究</p> <p>第10回：情報Ⅱ「情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」に関する学習内容</p> <p>第11回：情報Ⅱ「情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」に関する授業方法、および、教材研究</p> <p>第12回：学習指導案および教材の作成</p> <p>第13回：教材研究プレゼンテーション（Aグループ）</p>			

第14回：教材研究プレゼンテーション（Bグループ）

第15回：授業のまとめと今後の課題

テキスト

「情報 II」赤堀 侃司、東京書籍、2023

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「情報編」（文部科学省）

高等学校情報科「情報I」教員研修用教材 文部科学省

高等学校情報科「情報II」教員研修用教材 文部科学省

学生に対する評価

確認テスト40%、学習指導案作成・教材研究プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 喜多 三佳、上原 克之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職印免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 日本国憲法の重要な部分を理解し、現実の諸問題と結びつけて考えることができる。			
授業の概要 憲法の基礎知識を確かなものとし、時事問題とも関連させつつ講義を進めていく。基本的人権分野について、具体的な権利を挙げて詳しく考察するとともに、国会、内閣、裁判所などの組織と働きについても分析する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 憲法とは何か 第2回：日本国憲法の特徴（1） 国民主権、国際協和 第3回：日本国憲法の特徴（2） 基本的人権の尊重 第4回：自由権（1） 精神的自由権 第5回：自由権（2） 経済的自由権 第6回：平等権 平等原則と平等保障 第7回：社会権（1） 生存権 第8回：社会権（2） 教育を受ける権利 第9回：国会（1） 国会の組織と権能 第10回：国会（2） 国政選挙 第11回：内閣 内閣の組織と権能 第12回：裁判所（1） 裁判所の組織、司法権の独立 第13回：裁判所（2） 裁判所の権能、合憲性審査権 第14回：地方自治 地方自治の本旨と地方公共団体の権能 第15回：まとめ 講義全体についてまとめた後、内容を振り返り理解度を確認する			
テキスト 喜多：初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門 第6版』（有斐閣、2020）1,760円（税込） 上原：初宿正典他『目で見る憲法（第6版）』（有斐閣、2024）1,760円（税込）			
参考書・参考資料等 喜多：芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023）3,740円 上原：芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023）3,740円 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』（岩波書店、2014）1,012円			

杉原泰雄『憲法読本（第4版）』（岩波書店、2014）1,210 円

学生に対する評価

授業への取り組みと、到達度確認テストの成績により総合的に判断する。（テスト 70%、毎回の振り返りシート 30%）

授業科目名： 健康スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 英治、山中 一剛、 范 永輝、都築 吉則 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職印免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> スポーツの実践を通して人間関係を学び、社会性を高めながら生涯にわたり日常生活にスポーツを取り入れ、健康の保持増進をすることができる。また、いろいろな仲間と積極的にコミュニケーションをとることができる。スポーツの特性にふれながら、スキルを高めることができる。			
<b>授業の概要</b> 人間とスポーツの関わりを理解しながら「健康であるためのスポーツとは」という視点で健康の大切さ、さまざまなスポーツの実践を通して知識を深め、それぞれのスポーツの持つ特有なスキルに触れる。また、生涯にわたり「スポーツを楽しむ」気持ちを養い、健康を保持増進する習慣を身につける。実践の中で仲間と課題を克服するために創意工夫をしたり、協同作業をすることによりコミュニケーション能力を高めることで人間・社会関係力を養う。実技形式で授業を進めるが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指す。また、学生同士が意見交換やコミュニケーションをはかる場として、マナビコース の掲示板機能を利用することがある。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 授業内容について（授業の目的と進め方、体育館の使用上の注意と器具の説明、事前準備の確認など）説明する。 第2回：バドミントン 基本的技術の指導、ゲームでの実戦とルールの説明を行う。 第3回：バドミントン 基本的技術の指導、ゲームでの実戦を行う。 第4回：バドミントン 基本的技術の指導、ゲームでの実戦をリーグ戦で行う。 第5回：ソフトバレーボール 基本的技術の指導、ゲームでの実戦とルールの説明を行う。 第6回：ソフトバレーボール 基本的技術の指導、ゲームでの実戦を行う。			

**第7回：ソフトバレーボール**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦をリーグ戦で行う。

**第8回：バスケットボール**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦とルールの説明を行う。

**第9回：バスケットボール**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦を行う。

**第10回：スポンジテニス**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦とルールの説明を行う。

**第11回：スポンジテニス**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦をリーグ戦で行う。

**第12回：卓球**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦とルールの説明を行う。

**第13回：卓球**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦を行う。

**第14回：卓球**

基本的技術の指導、ゲームでの実戦をリーグ戦で行う。

**第15回：総まとめ**

これまで実戦してきたスポーツを仲間とともに実施する。

**テキスト**

特になし。

**参考書・参考資料等**

必要に応じて資料を配付する。

**学生に対する評価**

運動技能20%、スポーツ理解10%、レポート課題20%、積極的な取り組み50%

レポートに対するフィードバックは最終授業で全体に対して行う。

成績評価システム（絶対的相対評価）を利用する。

授業科目名： 英語コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ラックストン ロバート、 フェネリー マーク、 マクドナルド アンガス、 マドックス ノトリー 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職印免許法施行規則66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 学生は英語で様々なトピックに関して話をするができる。 学生は英語を用い、他のクラスメイトや教師と話をするができる。			
授業の概要 この授業では、主にスピーキング力とリスニング力の向上に焦点を当て、英語でコミュニケーションを行う際の基本的な知識・技能を体系的に習得し、社会でも活用できる力を身に付ける。プレイスメントテストの結果により、習熟度別にクラスが分けられる。授業内容に応じて、マナビコースおよびレスポソを利用する。			
授業計画 第1回：イントロダクションとコース説明 評価方法の説明 第2回：お互いのことを知ろう 自己紹介 第3回：家族について話す 英語で自身の家族について説明する 第4回：人や外見を描写する 色や服 第5回：日課や、時間、曜日 時間、月、日付について話す 第6回：趣味、興味、余暇活動 自分の趣味について話す 第7回：余暇、週末、休日の時間 現在形、未来形 第8回：あちこち行くこと、交通の手段 どのように通学していますか 第9回：食べ物			

食べ物の名前
第10回：外食、レストラン あなたのお気に入りのレストランはどこですか
第11回：旅行、人、場所 休暇中にどこに行く予定ですか
第12回：ホテルでの宿泊 受付での会話
第13回：過去の事を話す 過去形を使う
第14回：未来の事を話す 将来の夢
第15回：全体の復習
テキスト 適宜配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 小テスト+期末テスト 50%、授業参加度 50%、課題・小テスト等の添削・返却をし、フィードバックを適宜行う。最終評価は成績評価システムを用いることがある。

授業科目名： AI・データサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻岡 卓、戸川 聡、 近藤 明子、奥村 英樹、 住吉 孝次、長瀬 大、 児島 知樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職印免許法施行規則66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理、データ活用及び人工智能に関する科目又は情報機器の操作</li> <li>・数理、データ活用及び人工智能に関する科目</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>数理的モデルに基づく AI・データサイエンスの基礎的な知識・考え方を修得することを目標とする。現代社会 において AI・数理・データサイエンスの果たしている役割やデータ利活用の領域、その事例や価値創出、留意 すべき事項などを理解するとともに、データを読む、説明する、扱うなどについて基本的な考え方を学び、実際 のデータに対して適用することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ビッグデータの時代ともよばれる現代のデジタル社会においては、あらゆる種類のデータを処理・分析して、 そこから有用な情報・価値を引き出すデータサイエンスや人工知能(AI)がこれまでも増して重要となっ ている。本科目ではデジタル社会における専門的知識・技能の活用力を養うため、数理的モデルに基づく AI・データサイエンスについて、その役割や社会での様々なデータの利活用、データを扱う上での心得を学ぶとともに、データを読む、説明する、扱うといった基本的な活用方法を学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：AI・データサイエンスとは AI・データサイエンスについてその意味と現在の動向を学ぶ。</p> <p>第2回：AI・データサイエンスの役割 現代社会において AI・データサイエンスが果たしている役割を学ぶ。</p> <p>第3回：AI・データの活用とその領域 社会で活用されているデータやそれらデータの活用領域について学ぶ。</p> <p>第4回：AI・データの活用事例と技術 様々な現場でのデータ活用事例や様々な適用領域での価値創出について学ぶ。</p> <p>第5回：AI・データサイエンスと情報倫理 AI・データサイエンスにかかわる倫理的な諸問題を学ぶ。</p> <p>第6回：情報の適正な利用</p>			

<p>情報の適正な利用と AI 社会における論点について学ぶ。</p> <p>第7回：データ分析の基礎（1） データを可視化する方法を学ぶ。</p> <p>第8回：データ分析の基礎（2） データを主に数値で表現する方法を学ぶ。</p> <p>第9回：散布図と相関係数 2つの量の関係を表現する散布図と相関係数を学ぶ。</p> <p>第10回：回帰直線 2つの量の関係を定式化する回帰直線を学ぶ。これまで学んだことを小テストで確認する。</p> <p>第11回：データサイエンスの手法 クロス集計などデータサイエンスの基本的な手法を学ぶ。</p> <p>第12回：コンピュータを用いた分析（1） 表形式のデータ(csv)の扱いを学ぶ。スプレッドシートを用いて表形式のデータを扱う。</p> <p>第13回：コンピュータを用いた分析（2） スプレッドシートを用いたデータの分析を学び、実際のデータからグラフを作成する。</p> <p>第14回：データ分析で注意すべき点 データを取り扱うときに必要となる注意点について学ぶ。</p> <p>第15回：まとめ AI・データサイエンスについて学修を総括する。</p>
<p>テキスト</p> <p>竹村 彰通 他編著 『データサイエンス入門 第3版』 学術図書出版社、2024年 978-4780607291</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業の中で指示する課題のレポート（30%）、および筆記試験（70%）で評価する。 成績評価システム（絶対的相対評価）により評価する。</p>

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 孝次、奥村 英樹、 武市 泰彦、太細 譲士、 長瀬 大、児島 知樹
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職印免許法施行規則 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作</li> <li>・ 情報機器の操作</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、基礎的な知識としてコンピュータ科学を学び、Officeソフトの応用的な操作方法について学び、データサイエンスをテーマとする総合課題に取り組み、AI・数理・データサイエンス科目への円滑な接続ができる知識を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、高校で学んできた科目「情報Ⅰ」の知識をもとに、Society5.0、AI時代の人材に求められる情報収集能力や情報活用能力のさらなる伸長を主な目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータ科学基礎</li> <li>2. Office 365（応用）</li> <li>3. データサイエンス総合課題</li> </ol> <p>パソコンの基本的な知識、操作スキル、タイピング速度はある程度定着している者を履修対象とする。パソコンの基礎的な操作方法に関するサポートは行わない。基礎的な操作が不安な者は「情報基礎」をまず履修すること。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Class Guidance and Confirmation of Basic Knowledge on ICT （ガイダンスとICTに関する基礎知識の確認） 学内システムの利用方法、高校科目「情報Ⅰ」の復習</p> <p>第2回：Fundamentals of Computer Science: Information Society and Information Ethics. （情報社会と情報モラル） 著作権・知的財産権、個人情報保護、SNSやインターネット利用のリスク、フェイクニュース・デジタルシティズンシップ</p> <p>第3回：Fundamentals of Computer Science: Representation of Information and Digital Data. （情報の表現とデジタルデータ） 2進数、16進数、n進数、ビット・バイト・文字コード、データ表現</p> <p>第4回：Fundamentals of Computer Science: Various Data Representations. （データの種類（定性データ・定量データ）、表やグラフの作成・読み取り 代表値（平均・中央値・最頻値）、四分位範囲・分散・標準偏差、相関関係と因果関係の違い、データの可視化（散布図・ヒストグラムなど）</p> <p>第5回：Midterm Examination Fundamentals of Computer Science （コンピュータ科学基礎まとめ：中間試験）</p> <p>第6回：Microsoft Office 365 Word: This covers academic writing, topic writing, how to write references, and writing in academic paper format.（アカデミックライ</p>			

<p>ディング、トピックライティング、参考文献の書き方、論文形式の文章作成)</p> <p>第7回 : Microsoft Office 365 Word.(Using layout features and formatting tools, we will create documents in academic paper or report format) スタイルや段組み機能を用いて論文形式のレポート作成について学ぶ。</p> <p>第8回 : Microsoft Office 365 Word. (How to Write an Academic Report with the Help of LLM)</p> <p>第9回 : Microsoft Office 365 Excel: Basic Operations and Functions in Excel. (Excelの基礎的な操作と関数)</p> <p>第10回 : Microsoft Office 365 Excel: Statistical Techniques with Excel. (Excelによる統計手法、平均・分散・標準偏差・基本統計量)</p> <p>第11回 : Microsoft Office 365 Excel:Big Data. (大量のデータを扱う方法、箱ひげ図、度数分布表、ヒストグラム、散布図、相関係数)</p> <p>第12回 : Microsoft Office 365 PowerPoint: Basic Operations and the Slide Master Function. (基本的な操作方法とスライドマスター機能)</p> <p>第13回 : Microsoft Office 365 PowerPoint: Techniques for Designing Clear Slides and Communicating Information Effectively. (見やすいスライドの作成方法、情報の伝え方)</p> <p>第14回 : Comprehensive Project in Computer Science SSDSE(教育用標準データセット)を用いて、総合演習を行う。</p> <p>第15回 : Regular Exams:Comprehensive Project in Computer Science (データサイエンス総合演習 : 定期試験)</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータ科学基礎 (テスト) …中間試験 (30点)</li> <li>2. データサイエンス総合課題 (レポート) …定期試験 (30点)</li> <li>3. 通常授業の中での提出課題 (40点)</li> </ol> <p>によって評価を行う。</p>

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小野 健司 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：〈教育原論〉上のもっとも基礎的な概念や、一般的な知識について理解する。</p> <p>到達目標：以下の各内容について理解することができることを目標とする。</p> <p>①教育の基礎的な概念や理念についての理解</p> <p>②教育の歴史・思想史に関する基礎的知識についての理解</p> <p>③歴史的社会的な文脈の中で、現代の教育問題と、その解決法を捉えることについての理解</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会は、不登校やいじめ等といった教育問題をめぐって混迷をきわめているようにもみえる。本来、ヒトの自立のための助けとなるはずの教育が、なぜ、このような抑圧性をもつことになってしまったのだろうか？教育の本質を見極めるために必要となるのは、教育学の諸原理を学ぶことである。これらを学ぶことによって、現在と未来の中等教育の姿を明確に見通すことができるようにすることが、この授業の目標である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か—— 常識的なものの見方と考え方の転換 ——</p> <p>第2回：教育者とその教育観—— 観念的な教育論の限界とその解決法 ——</p> <p>第3回：教育と学習の関係 —— 教育の継続とその効果 ——</p> <p>第4回：子どもの社会性と個性 —— 個性の本質とは何か ——</p> <p>第5回：〈しつけ〉の現象論と本質論 —— 〈しつけ〉の目的とは何か ——</p> <p>第6回：近代以前の人間形成と学校 —— 教育の必要性 ——</p> <p>第7回：近代における西洋の教育思想 —— 教育における〈自由〉と〈束縛〉 ——</p> <p>第8回：近代公教育の思想 —— 教育における〈自由〉と〈束縛〉その2 ——</p> <p>第9回：近代教育制度と学校 —— 創造性を生み出すための必要条件とは何か ——</p> <p>第10回：日本の学校教育制度の成立と展開 —— 教育学入門 その1 ——</p> <p>第11回：子ども中心主義と新教育運動 —— 教育学入門 その2 ——</p> <p>第12回：第二次世界大戦後の学校教育の歴史 —— 教育学入門 その3 ——</p> <p>第13回：現代の教育課題とその解決法 —— 子ども中心主義の考え方と方法 ——</p> <p>第14回：教育の本質を保障するためのものの見方・考え方 —— 教育と試験に対するものの見方・考え方 ——</p> <p>第15回：たのしい授業と教育が切りひらく世界 —— 本講義のまとめと試験 ——</p>			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

板倉聖宣『たのしい授業』仮説社、1988年

学生に対する評価

試験によっておこなう（100%）

授業科目名： 教職基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野辺 貴則、藤井 伊佐子 、田中 義人 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、「教職の意義や、教員の役割・資質能力・職務内容、進路選択に資する教職の在り方を理解する」ことを目指し、現代社会における教職の意義やチーム学校運営への対応を学ぶことがテーマである。到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。</li> <li>・教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。</li> <li>・教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。</li> <li>・我が国の教職観の変遷を踏まえ、専門的教師観に基づいた教師像の在り方を理解する。</li> <li>・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性を理解し、今日的な課題に関する解決策をチーム学校の観点から思案する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、教職の意義や教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を図ると共に、学校の担う役割が拡大・多様化することを踏まえ、専門職としての基本要件や学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性についての理解を図る。また、教職観の変遷や教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を踏まえつつ、今日の教員に求められる役割を基にした教職の在り方や、学校教育の今日的な課題（いじめ問題等）についての対応の在り方を思案する機会を設定する。さらに、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する事例を学ぶことを通して、教職への意欲を高めると共に進路選択に資する教職の在り方の理解を図る。</p> <p>なお、講義の際には、教職の社会的意義を題材とした視聴覚教材を視聴する機会を設けると共に、授業時に小レポートを課すことを通して、講師と受講者との双方向の授業展開を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職の意義や講義の概要と授業の進め方について（河野辺）</p> <p>第2回：学校教育における教員の役割や職務内容について（河野辺）</p> <p>第3回：教職観の変遷から見た理想の教師像や職業としての教師像について（河野辺）</p> <p>第4回：学校の教師に求められる資質・能力について(1)学習指導の進め方について（河野辺）</p> <p>第5回：教職の意義や教員養成の歴史について（田中）</p>			

<p>第6回：教職員配置の原則や教員の服務や義務について（田中）</p> <p>第7回：学校教育における管理職・主任の役割について（田中）</p> <p>第8回：教員の勤務実態やライフサイクルと異同について（田中）</p> <p>第9回：教員の力量形成と研修制度について（藤井）</p> <p>第10回：学校の教師に求められる資質・能力について(2)学級経営の原理・原則について（藤井）</p> <p>第11回：教員免許状と教職への進路選択、教員採用の現状について（藤井）</p> <p>第12回：チーム学校で運営する今日的な課題への対応について（藤井）</p> <p>第13回：学校の教師に求められる資質・能力について(3)チーム学校によるいじめ問題への対応について（河野辺）</p> <p>第14回：学校教育における人権教育の推進と社会的意義について（河野辺）</p> <p>第15回：教職の意義及び教員の役割・職務内容と今後の課題について（河野辺）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>佐藤春雄『教職概論 教師を目指す人のために 第6次改訂版』、学陽書房、2022年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』、東洋館出版社、2022年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内での小レポート(50%)、試験(50%)</p>

授業科目名： 教育経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 葛上 秀文、藤川 正樹、 美馬 大作
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ</p> <p>現代の学校教育を取り巻く社会的、制度的、経営的事項、及び地域との連携や学校安全について幅広く取り扱い、学校経営や学級経営に求められる知識や素養を具体的に学び考察する。</p> <p>到達目標</p> <p>学校経営や学級経営に求められる様々な教育課題解決のために必要な資質を伸ばし、児童生徒・保護者や地域社会から信頼される教師として活躍するための、基礎力から実践力までを身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育に係る社会的課題、地域社会との連携、児童生徒・保護者や社会との関わり方、教育実践上の様々な課題を取り上げ、学校経営のあり方について講義する。また、学級経営において求められる知識・手法や、学校・教職員の制度的意義を関係教育法規等も扱う。学校教育における指導力や経営力に繋がる幅広い能力の育成を目指して、実践事例を積極的に取り扱い、レポート作成や課題解決型の学習を通じて、主体的に考える力を育成する授業を行う。</p> <p>この授業を通じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する豊かな専門知識と技術を身につけ、児童生徒を理解し実践的に指導する力</li> <li>・教育者として学び続け、他者との協働によって課題を解決するために情報収集し分析する力を高めることを目指す。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 日本の教育制度と学校の機能 ー日本における学校の役割や制度を考える（葛上）</p> <p>第2回 様々な教育課題と解決手法 ー教育を取り巻く事項について考える（葛上）</p> <p>第3回 学級経営の基礎知識① ー人権教育と特別支援教育（美馬）</p> <p>第4回 学級経営の基礎知識② ー生徒指導・生徒支援（美馬）</p> <p>第5回 学級経営の基礎知識③ ー学級制度と学級経営（美馬）</p> <p>第6回 教育活動を支える制度と教員評価（美馬）</p> <p>第7回 保護者・地域連携と学校（葛上）</p> <p>第8回 学校教育と教育行政（葛上）</p> <p>第9回 教育制度・法制&lt;1&gt; 憲法・教育基本法（藤川）</p> <p>第10回 教育制度・法制&lt;2&gt; 学校教育法・その他の法律（藤川）</p> <p>第11回 教育制度・法制&lt;3&gt; 学習指導関連（藤川）</p> <p>第12回 教育制度・法制&lt;4&gt; 教職員の法的立場（藤川）</p>			

第13回 学校教育に対する社会的・国際的要請（藤川）

第14回 学校経営と危機管理（葛上）

第15回 教員の役割、教育経営論まとめ（葛上）

テキスト

- ・文部科学省「小学校学習指導要領」（東洋館出版社）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領」（東山書房）
- ・適宜、資料プリントを配付

参考書・参考資料等

どこでも教職教養試験（一ツ橋書店）

学生に対する評価

講義への取り組み・参加態度 30%、レポート・提出物 30%、授業内筆記試験 40%

なお、必要に応じて、成績評価システム（絶対的相対評価プログラム）を適用する。

レポート等に対するフィードバックは、随時授業で行う。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富岡直美、原田美代子 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>学習者がより良く学べるようい教育者はいかに支援すればよいのか。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解することができる。</p> <p>(2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を述べるができる。</p> <p>(3) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を説明することができる。</p> <p>(4) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解することができる。</p> <p>(5) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、教職課程コアカリキュラム「幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程」に対応し、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目的とする。具体的には(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程及び特徴の理解すること、(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識に身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することを目標とする。</p> <p>さらに、教育心理学の知見を生かした学習者中心の主体的な学びを履修者自身が体験することで、授業内容をより深く理解できるように、マナバコースを用いて振り返り、意見交換などのアクティブラーニングを行う。なお、本講義は特に、ディプロマポリシーにおける教育・保育に関する専門的な知識の獲得や、子どもを理解する能力を修得する上での必要な科目となる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要説明、教育心理学の定義と歴史（原田）</p> <p>授業の概要、進め方、成績評価、および教育心理学の定義と学修の意義について説明する。</p> <p>第2回：心理学における発達（原田）</p>			

人は誕生してからどのように成長するのか、遺伝と環境の影響を考える。

第3回：身体・運動の発達（原田）

人は誕生してからどのように身体的に成長するのかを考える。

第4回：知能の発達（原田）

主にピアジェを取り上げ、知能の発達について概説する。

第5回：人格の発達（原田）

自分らしさはどのようにつくられるのか、アイデンティティの概念を中心に概説する。

第6回：社会性と言語（原田）

社会性の発達と言語の発達について、主要な理論を概説する。

第7回：記憶（富岡）

人間の記憶の仕組みについて概説する。

第8回：学びのメカニズム（富岡）

人の学びに関する理論を紹介し、より良く学ぶ方法について考察する。

第9回：動機づけ（富岡）

人がやる気になる時、やる気がなくなる時はどんな時なのか、動機づけに関する理論を紹介する。

第10回：集団の心理学（富岡）

教科学習以外に教室で先生や友達から何を学ぶのか、心理学の視点から考察する。

第11回：教育方法①（富岡）

教育心理学分野で提唱されている主要な教育方法について体験的に学ぶ。

第12回：教育方法②（富岡）

教育心理学分野で提唱されている主要な教育方法について、理解を深める。

第13回：教育評価（富岡）

心理学の観点から学習における評価の重要性について概説する。

第14回：教師の心理（富岡）

教育心理学理論に基づき研究的視点で授業を捉える方法を学ぶ。

第15回：授業の振り返りとまとめ（富岡）

これまでの授業を振り返り、まとめを行う。期末試験。

テキスト

資料をマナバコースで配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

課題30%、期末試験70%

なお、科目間または学部・学科間の成績の偏りを少なくするために、前述の方法によって評価した結果を、さらに成績評価システム（絶対的相対評価プログラム）によって変換した結果

をもとに最終評価を決定する場合がある。

授業科目名： 特別支援教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上岡 義典
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>&lt;授業のテーマ&gt;</p> <p>特別支援教育とは？</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>特別支援教育が平成19年からスタートし、特別支援学校のみならず保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校においても、障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みや適切な支援が必要となっている。本講義では、教師として特別支援をおこなう際の基礎となる知見を包括的に学ぶことにより、特別支援教育の基本的枠組みや支援の在り方を修得することができる。加えて、障がいはないものの、特別な教育的ニーズを有する子どもへの支援の方法について理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では到達目標をふまえつつ、特別支援教育に関する基礎知識および各障がいの概要、加えて支援方法について学ぶ。具体的には、特別支援教育の理念や仕組み・教育の実際を学んだあと、様々な障がいについての理論や障がい以外の特別な教育的ニーズの把握および支援方法について学ぶ。視聴覚教材を用いた講義が中心であるが、適宜「演習」を実施するとともに、一部に「反転授業」の要素を取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育の理念と仕組み －特別支援教育について知る</p> <p>第2回：特殊教育の歴史と特別支援教育への転換 －特殊教育の展開とパラダイム転換としての特別支援教育について理解する</p> <p>第3回：「障がい」概念の変遷 －「障がい」概念の変遷について理解する</p> <p>第4回：特別支援学校における教育 －特別支援学校の現状と課題について、指導領域である自立活動を含めて理解する</p> <p>第5回：特別支援学級・通級指導による教育 －特別支援学級・通級指導の現状と課題について、参考にして指導を行っている特別支援学校の指導領域である自立活動を含めて理解する</p>			

## 第6回：知的障がい

－知的障がいの特徴・特性と教育的支援について理解する

## 第7回：視覚障がい

－視覚障がいの特徴・特性と教育的支援について理解する

## 第8回：聴覚障がい

－聴覚障がいの特徴・特性と教育的支援について理解する

## 第9回：肢体不自由

－肢体不自由児の特徴・特性と教育的支援について理解する

## 第10回：病弱

－病弱児の特徴・特性と教育的支援について理解する

## 第11回：発達障がいと保護者支援

－発達障がいの基礎と保護者支援の在り方について理解する

## 第12回：発達障がい（自閉スペクトラム症；ASD）の理解と援助（1）

－ASDの特徴と支援の基本について理解する

## 第13回：発達障がい（注意欠如多動症；ADHD、限局性学習症；SLD）の理解と援助（2）

－ADHDとSLDの特徴と支援の基本について理解する

## 第14回：障がいはないが特別な教育的ニーズを有する子どもの理解とその支援

－障がいはないが特別な教育的ニーズを有する子どもとその支援の在り方について理解する

## 第15回：現状と課題：まとめ

－講義を振り返り、特別支援教育の現状と課題について触れた後、演習（小論文）を実施する

定期試験は別途には実施せず、授業内で課題（演習）を課す。

## テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて、資料を配付・配信する。

## 参考書・参考資料等

授業の中で、必要に応じて紹介する。

## 学生に対する評価

演習（70%）、授業への取り組み（30%；受講態度、提出する課題・意見・感想）をもとに総合的に評価する。受講者数を勘案した上で、絶対的相対的評価を利用する。

演習については、マナバコースを通じて全体にフィードバックを行う。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川 裕稔
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業のテーマは「教育課程（≒カリキュラム）の概要を理解する」ことである。</p> <p>日本の学校は今、重要な転換期を迎えている。学校現場では、教育の内容や方法（教育課程）の改革が求められてきている。そこで本講義では、教育課程（カリキュラム）に関する基本的な用語・知識に加えて、教育課程編成の日本国内における歴史的変遷、新しい教育課程の開発や編成に関する基本問題の理解を到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、教育課程とカリキュラムに関する基本的な用語・知識に加えて、日本における教育課程（カリキュラム）の歴史的変遷・背景、教育課程の開発論や編成に係る基本問題などをわかりやすく解説する。また、学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラムマネジメント」と教育課程の関係のあり方についても言及する。本講義は講義形式の授業ですが、ペアワーク（アクティブラーニング）に加えて、「紙面討論」にて「学生の内心（面）の自由」を保障するアクティブラーニング形式の教授（学習）法も、随時授業に織り込む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>授業の進め方、評価基準について説明する。また自己・他己紹介も行う。</p> <p>第2回：教育課程（カリキュラム）とは何か</p> <p>教育課程とカリキュラムの違いについて説明する。</p> <p>第3回：教育課程の基本問題</p> <p>教育課程作成上の問題点を提示する。</p> <p>第4回：臨時教育審議会と中央教育審議会の教育改革</p> <p>臨教審と中教審の答申の変遷について説明する。</p> <p>第5回：欧米の教育課程改革の歴史</p> <p>とくにアメリカ合衆国の教育課程に焦点をあて説明する。</p> <p>第6回：日本の教育課程改革の歴史</p> <p>わが国の教育課程の歴史を明治時代から振り返る。</p> <p>第7回：教育課程の編成原理</p> <p>教育課程を編成する際の基本を説明する。</p> <p>第8回：子どもの発達と教育課程</p>			

各教育段階の教育課程の違いについて児童生徒の発達との観点から説明する。

第9回：教科書の機能と実態

教育課程と教科書の関係性について説明する。

第10回：学習指導要領の位置づけ

学習指導要領の教育課程での位置づけについて説明する。

第11回：教育課程の構造

教育課程が成り立つ要素を提示する。

第12回：「学び」を活かす教育課程の在り方

教育課程を開発する上で児童生徒の学びが基本にあることを強調する。

第13回：新しい教科構成論の探求

教育課程開発のあり方について説明する。

第14回：総合的学習の課題

総合的学習の時間と教育課程の関連性について説明する。

第15回：総括

これまでの内容を復習する。確認テスト

テキスト

特になし（担当教員作成による資料を使用）

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）

『高等学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）

学生に対する評価

授業参加(30%)、確認テスト(40%)、レポート(30%)から判断する。

※絶対的相対的評価を用いる。

授業科目名： 道徳教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野辺 貴則 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>本授業は、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解し、教材研究や学習指導案の作成する実践的な指導力」を身に付けることを目指し、道徳教育の意義や原理、指導法を学ぶことがテーマである。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。</li> <li>・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。</li> <li>・道徳科における授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案を作成し、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を踏まえた授業設計の在り方を例示することができる。</li> <li>・道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解し、模擬授業を実施した後の振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>本講義は道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。また、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）や道徳性の発達、道徳科における取組の評価・改善活動の重要性の理解を図る。</p> <p>なお、講義の際には、協働で学ぶ特質を生かした体験的な機会を導入する。また、道徳科の授業実践に関する視聴覚教材を視聴する機会を設けると共に、授業時に小レポートを課すことを通して、講師と受講者との双方向の授業展開を実施する。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：道徳教育の意義や講義の概要と授業の進め方、成績評価等について</p> <p>第2回：道徳の本質と道徳性発達理論について</p> <p>第3回：学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容について</p> <p>第4回：戦前と戦後の道徳教育の歴史の変遷や、道徳教育の現状と課題について</p> <p>第5回：道徳科の指導方法の特徴(1)読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習について</p> <p>第6回：道徳科の指導方法の特徴(2)問題解決的な学習・道徳的行為に関する体験的な学習について</p>			

<p>第7回：道徳科の学習指導案の作成について(1) 道徳科の目標や指導内容、指導方法について</p> <p>第8回：道徳科の学習指導案の作成について(2) 道徳科の教材と評価方法について</p> <p>第9回：道徳科の実践例示について(1) 模擬授業を通じた実践的な指導力について</p> <p>第10回：道徳科の実践例示について(2) 模擬授業を通じた多様な指導方法の特徴について</p> <p>第11回：道徳科の実践例示について(3) 模擬授業を通じた学習評価について</p> <p>第12回：道徳科の実践例示について(4) 模擬授業を通じた授業改善の視点について</p> <p>第13回：道徳科における評価の意義や評価法について</p> <p>第14回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性と人権教育との関係性について</p> <p>第15回：道徳科の特質を活かした授業改善の視点と道徳教育の課題について 定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』、廣済堂あかつき、2018年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>河野辺貴則『人権教育と道徳科の接合点 人権課題を題材にした道徳授業の展開』大学教育出版、2023年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内での小レポート(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)</p>

授業科目名： 総合的な学習の時間	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱口 恒一郎
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】総合的な学習の時間に関する授業構想力や授業実践力の育成			
【到達目標】			
1) 総合的な学習の時間」の意義や歴史、背景、現状と課題などを理解し説明することができる。			
2) 「総合的な学習の時間」の目標、内容や、指導計画の作成の意味を理解している。			
3) 探究的な学習過程や学習者の学習状況評価をふまえた指導計画や指導案を作成することができる。			
4) 探究課題を設定し、主体的・対話的・協働的に研究・調査を行い、ICT を活用して報告や発表をすることができる。			
5) 模擬授業を通して、指導計画やカリキュラムをマネジメントの意義を考えることができる。			
授業の概要			
「総合的な学習の時間」の意義、校種別の学習指導要領の目標と内容等について理解できるようにするとともに、探究課題に関わる主体的・対話的・協働的な学びを実感的に習得できるように作業的学習を取り入れる。模擬授業等を通して、複数の教員が協力して行う T・T の指導法や、児童・生徒の実態に即して興味・関心を高める教材研究の在り方、教材・教具の工夫、学習指導案の書き方や効果的な展開の仕方等を理解し、実践的指導力を身に付けるようにする。このような学びを通して、ディプロマポリシーで掲げてある「専門的知識・技能の活用力」「就業力」につなげることを目的としている。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、自分の課題探究と発表の予告			
第2回 「総合的な学習の時間」創設の歴史と背景			
第3回 学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標と内容、指導計画の作成と内容の取扱い、他教科等の学習との関連			
第4回 各学校において定める目標及び内容			
第5回 指導計画の作成と内容の取扱い 実践事例に学ぶ—地域・食育・健康・防災等に関するテーマの実践から			
第6回 総合的な学習の時間の指導計画の作成 実践事例に学ぶ—地域・食育・健康・防災等に関するテーマの実践から			
第7回 総合的な学習の時間の年間指導計画 実践事例に学ぶ—地域・食育・健康・防災等に関するテーマの実践から			

第8回 総合的な学習の時間の学習指導

実践事例に学ぶ—地域・食育・健康・防災等に関するテーマの実践から

第9回 総合的な学習の時間の評価とカリキュラムマネジメント

第10回 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり

第11回 「探究活動発表プロジェクト」①

—グループごとの課題設定と指導計画づくり—

第12回 「探究活動発表プロジェクト」②

—グループでの探究活動プラン策定（発表シナリオづくり）—

第13回 「探究活動発表プロジェクト」③

—発表会の練習を行う—

第14回 「探究活動発表会をしよう」

課題追究の報告・発表、質疑応答、相互評価による学び合い

第15回 これまでの授業を振り返り、講義のまとめを行う。

テキスト

文部科学省中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）

文部科学省高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年告示）

参考書・参考資料等

学習指導案例など、資料は適宜配布する。

学生に対する評価

授業参加の発表・態度（40%）毎回の振り返りシート（30%）レポート等提出物（30%）などから判断する。

授業科目名： 特別活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野辺 貴則
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>本授業は、「学校教育全体における特別活動の意義や特別活動の目標や内容、指導計画等を理解する」ことを目指し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を踏まえた特別活動の特質や指導法を学ぶことがテーマである。到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容や教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解する。</li> <li>・特別活動の歴史的変遷を踏まえた上で学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解する。</li> <li>・家庭・地域住民や関係機関との連携や教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を理解する。</li> <li>・特別活動の目標や指導内容、指導方法、評価方法の理論を基に学習指導案を作成し、評価・改善活動の重要性を踏まえて例示することができる。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>本講義は、学校教育全体における特別活動の意義の理解を図ると共に、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を基にした特別活動の特質、指導の指針となる全体計画の作成方法に関する基本的な考え方についての理解を図る。また、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質に関する指導理論を踏まえた指導の在り方や、特別活動における取組の評価・改善活動の重要性の理解を図る。</p> <p>なお、講義の際には、協働で学ぶ特質を生かした体験的な機会を導入する。また、特別活動の授業実践に関する視聴覚教材を視聴する機会を設けると共に、授業時に小レポートを課すことを通して、講師と受講者との双方向の授業展開を実施する。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：特別活動の意義や講義の概要と授業の進め方、成績評価等について</p> <p>第2回：特別活動の目標と内容、指導の在り方について</p> <p>第3回：教育課程における特別活動の位置付けと教育活動全体における意義について</p>			

<p>第4回：学級活動の目標と学級活動(1)、学級活動(2)、学級活動(3)の特質について</p> <p>第5回：特別活動の歴史の変遷と学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質について</p> <p>第6回：学級活動の学習指導案の作成について(1) 特別活動の目標や指導内容、指導方法について</p> <p>第7回：学級活動の学習指導案の作成について(2) 特別活動の評価方法について</p> <p>第8回：学級活動の実践例示について(1) 模擬授業を通した「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点について</p> <p>第9回：学級活動の実践例示について(2) 模擬授業を通した合意形成に向けた話し合い活動の意義について</p> <p>第10回：学級活動の実践例示について(3) 模擬授業を通した意思決定につながる指導及び集団活動の意義について</p> <p>第11回：学級活動の実践例示について(4) 模擬授業を通した評価・改善活動の意義について</p> <p>第12回：特別活動における各教科、領域との関連と家庭・地域住民や関係機関との連携について</p> <p>第13回：特別活動における児童会活動・クラブ活動・学校行事の目標と内容について</p> <p>第14回：特別活動の特質、指導の指針となる全体計画の作成方法と人権教育との関係性について</p> <p>第15回：特別活動を「チームとしての学校」として組織的・計画的に推進する意義について</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』、東洋館出版社、2018年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター『特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』、文溪堂、2019年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内での小レポート(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)</p>

授業科目名： 教育の方法及び技術（ 情報通信技術の活用を 含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小野健司、武市泰彦 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：〈教育方法と技術〉及び〈情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法〉について、もっとも基礎的な概念や、一般的な法則について理解・応用することができるようになる。</p> <p>到達目標：特に以下の点について理解し、身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎的な概念や理論・実践</li> <li>・教育技術の必要性</li> <li>・アクティブ・ラーニングの必要性と具体的な方法</li> <li>・情報通信技術を活用した授業の意義と効果を理解し、指導案を作成できる。</li> <li>・情報活用能力について各教科に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を活用できる。</li> <li>・プログラミング教育の目的を理解し、指導できる。</li> <li>・学習履歴などの教育データを分析し、学習評価に活用できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>〈たのしい授業〉をおこなうためには、教師の熱意や、教師としての経験をできるだけ積むことも大事な条件である。それ以上に重要なことがある。それは、「子ども一人ひとりの個性をこえた地点にある〈認識過程の法則性〉に則って授業をおこなう」ということである。そこで、この授業では、さまざまな教材を紹介しながら、〈たのしい授業〉を実践するための方法・技術について学んでいく。特に〈アクティブ・ラーニング〉の意義と方法・技術について詳しくとり上げる。</p> <p>また、社会的な背景の変化や急速な情報技術の発展により、教育現場では情報通信技術を用いた授業改善の必要性が求められている。授業の後半では、情報通信技術を活用する意義を理解し、学校現場で実践可能な授業方法を実践的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育者にとって必要な心構えと、教育方法の基礎的な概念の理解——教育における〈教師の思い〉と〈教育方法〉との関係——（担当：小野）</p> <p>第2回：認識論と教育方法——予想を立てて実験（検証）することの意義——（担当：小野）</p> <p>第3回：教材における問題配列の方法とその歴史——〈易から難への原則〉と〈難から易への原則〉——（担当：小野）</p>			

第4回：「主体的・対話的・深い学び」の方法とその歴史——一般的な認識の成立過程——（担当：小野）

第5回：アクティブ・ラーニングを実現する教材——創造性を高める〈作文教育法〉を例にして——（担当：小野）

第6回：学習指導案の構成とその作成法——指導案の作成と評価の方法——（担当：小野）

第7回：現代の教育課題と教育・評価の方法及び技術（担当：小野）

第8回：本講義の全体的な復習と中間試験（担当：小野）

後半は情報通信技術を活用した教育の理論と必要性の導入的内容（担当：武市）

第9回：情報通信技術を活用した授業の意義と効果（担当：武市）

第10回：情報活用能力（情報モラルを含む。）について各教科に応じた指導事例（担当：武市）

第11回：情報活用能力（情報モラルを含む。）について基礎的な指導法（担当：武市）

第12回：プログラミング教育の基礎（担当：武市）

第13回：プログラミング教育の指導（担当：武市）

第14回：学習履歴などの教育データの分析（担当：武市）

第15回：教育データの学習評価への活用及びICTを使用した校務の推進（担当：武市）

テキスト

- ・『小学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）
- ・『高等学校学習指導要領』（平成29年3月告知 文部科学省）

他に、適宜授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

板倉聖宣『たのしい授業の思想』（仮説社、1988年）

学生に対する評価

前半については、試験によっておこなう（50%）。

後半については、毎回の課題から評価する（50%）。

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野辺 貴則、岡田 康孝 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>本授業は、「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や、進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識や素養を身に付ける」ことを目指し、現代社会における生徒指導や進路指導及びキャリア教育の理論や方法を学ぶことがテーマである。到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程における生徒指導の位置付けと各教科や道徳教育、特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解する。</li> <li>・生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理と進め方とすべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方を理解する。</li> <li>・児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と校内外の連携も含めたチーム学校としての対応の在り方を理解する。</li> <li>・全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の意義や原理と指導の在り方を理解する。</li> <li>・児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>本講義は、生徒指導が一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われることへの理解を図る。</p> <p>また、学校教育における教育相談や危機対応に関する事例について紹介し、組織的な観点から生徒指導を展開していくことの意義についての理解を図る。さらに、進路指導が児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であることへの理解を図ると共に、ガイダンスやカウンセリングの理論や進路指導・キャリア教育の視点に立ったポートフォリオ（キャリア・パスポート）の活用の在り方を体験的に学ぶ機会を設ける。</p> <p>なお、講義の際には、危機対応に関する視聴覚教材を視聴する機会を設けると共に、授業時に小レポートを課すことを通して、講師と受講者との双方向の授業展開を実施する。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：生徒指導の意義や講義の概要と授業の進め方、成績評価等について（河野辺）</p>			

<p>第2回：生徒指導の定義や目的、方法原理について（河野辺）</p> <p>第3回：教育課程における生徒指導と各教科や道徳教育、特別活動等との関係について（河野辺）</p> <p>第4回：学級・学年・学校による生徒指導体制の在り方について（河野辺）</p> <p>第5回：チーム学校の観点による危機対応の在り方について（河野辺）</p> <p>第6回：関係機関等との校内外の連携も含めたチーム学校としての対応の在り方について（河野辺）</p> <p>第7回：児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と発達障害に関する理解と対応について（河野辺）</p> <p>第8回：学校教育における教育相談の特質や教育相談体制について（岡田）</p> <p>第9回：個別の課題を抱える児童生徒へのカウンセリングや生徒指導体制の進め方について（岡田）</p> <p>第10回：学校教育における進路指導・キャリア教育の意義や原理について（岡田）</p> <p>第11回：児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について（岡田）</p> <p>第12回：全ての児童及び生徒を対象としたキャリア・パスポートの考え方と指導の在り方について（岡田）</p> <p>第13回：生徒指導における人権教育の意義と個別の人権課題について（河野辺）</p> <p>第14回：生徒指導に関する法制度や、学校を中心とした地域社会との連携活動の意義について（河野辺）</p> <p>第15回：ガイダンス理論を基にした生徒指導と進路指導・キャリア教育の意義について（河野辺）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』、東洋館出版社、2022年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『学びをつなぐ！「キャリア・パスポート」』、光村図書、2023年。</li> <li>・長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平『事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編』遠見書房、2019。</li> <li>・藤平敦『若手教員の力を引き出す研修でつかえる生徒指導事例50』、学事出版、2016年。</li> </ul>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内での小レポート(50%)、試験(50%)</p>

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富岡直美、姫田知子 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 教育相談をどうすれば効果的に進められるのか。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。</li> <li>(2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。</li> <li>(3) 幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味、ならびに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき支援方法を想定することができる。</li> <li>(4) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。</li> <li>(5) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を説明することができる。</li> <li>(6) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。</li> <li>(7) いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を想定することができる。</li> <li>(8) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解することができる。</li> <li>(9) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業は、教職課程コアカリキュラム「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に対応し、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることを目的とする。</p> <p>具体的には（1）学校における教育相談の意義と理論を理解すること、（2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解すること、（3）教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解す</p>			

ることを目標とする。

#### 授業計画

第1回：授業の概要説明、教育相談の意義（姫田）

授業の概要および教育相談の必要性と意義、学校におけるカウンセリングマインドについて説明する。

第2回：メンタルヘルス（姫田）

不適応や問題行動の要因に気づき支援するためにメンタルヘルスについて概説する。

第3回：アセスメント（姫田）

不適応や問題行動の意味や子どもが発するシグナルに気づくためのアセスメントについて概説する。

第4回：カウンセリングの理論（姫田）

教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を解説する。

第5回：カウンセリングの技法①（姫田・富岡）

受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を概説する。

第6回：カウンセリングの技法②（姫田・富岡）

受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を体験する。

第7回：チーム支援の実践方法（富岡）

組織的な取組みの必要性、専門機関との連携の意義や必要性を概説する。

第8回：教育相談における問題（富岡）

教育相談が対応する問題を概説し、後半のグループ発表に向けた説明と準備を行う。

第9回：保護者への対応（富岡）

保護者に対する教育相談の進め方について概説する。

第10回：いじめへの対応（富岡）

いじめに対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を検討する。

第11回：虐待への対応（富岡）

虐待に対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を検討する。

第12回：不登校への対応（富岡）

不登校に対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を検討する。

第13回：非行・暴力行為への対応（富岡）

非行に対する、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を検討する。

第14回：その他の課題への対応（富岡）

その他の様々な課題に応じた教育相談の進め方を検討する。

第15回：授業の振り返りとまとめ（富岡）

これまでの授業を振り返り、まとめを行う。期末試験

#### テキスト

資料をマナバコースで配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

発表20%、課題30%、期末試験50%

なお、科目間または学部・学科間の成績の偏りを少なくするために、前述の方法によって評価した結果を、さらに成績評価システム（絶対的相対評価プログラム）によって変換した結果をもとに最終評価を決定する場合がある。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (小・中・高)		単位数：2単位	担当教員名：川端 新		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	15～20人				
<b>教員の連携・協力体制</b> 教職専門の教員が、実地指導講師を積極的に登用しながら、綿密な連携・協力のもとに授業を行う。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：大学における教職課程の学びを統括する。 達成目標：教員として求められる4つの資質・能力（①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性・対人関係能力、③生徒理解と学級経営能力、④教科等の指導力）について、4年前期までに学部授業や教育実習等を通して修得してきた知識・技能・態度を確認・点検し、不足している知識・技能・態度を補完・向上させ、小・中・高等学校教員に必要な資質と能力を有機的に統合形成させる。					
<b>授業の概要</b> 本授業では、「求められる教師像」、「生徒理解と学級経営」、「組織としての学校力」、「教科指導」の4つの柱を中心に、4年次前期までに学習したことを振り返る。そして、そこから課題を見つけ、その課題を解決することを目指して、調べ学習、グループ学習、事例研究などを組み合わせ、教師に必要な知識、技能、態度のより豊かな修得を図る。さらに、学校行事やクラブ活動などの教科外活動、あるいはPTA活動などについても、ディスカッション等を通して理解を深める。					
<b>授業計画</b> 第1回：本授業のガイダンス（課題、目標、履修カルテの確認および今後の流れ）と教育実習の振り返り 第2回：グループ討議「教職の意義」 第3回：「特別支援教育」外部講師を招聘 第4回：グループ討議「児童生徒指導」 第5回：グループ討議「学級経営・学校行事・クラブ活動」 第6回：グループ討議「学校と地域・保護者の連携」 第7回：グループ討議「教育相談」 第8回：「外国語活動と外国語」外部講師を招聘 第9回：グループ討議「学校教育と人権」 第10回：グループ討議「ICTと教育」 第11回：模擬授業準備 第12回：模擬授業発表（小学校）と省察 第13回：模擬授業発表（中学校）と省察					

第14回：模擬授業発表（高等学校）と省察 第15回：本授業の総括と学修成果の確認 定期試験は実施しない
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 小・中・高等学校学習指導要領および解説書
学生に対する評価 グループワークでの参画度（20%）、各グループ討議課題に関するレポート（40%）、学習指導案と模擬授業（40%）をそれぞれ評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2 単位	担当教員名：大住 満寿夫			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	15～20人				
<b>教員の連携・協力体制</b> 教職に関する科目の担当教員を中心に、教職および教科の専門教員が綿密な連携の下で、単独またはチームティーチングの形で授業を行う。また、本学が連携協定を結んでいる徳島県教育委員会から、現職教員をゲストティーチャーとして派遣していただき、実践的な授業レクチャーを通じて、より実務に即した教育内容を提供できるよう努めていく。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 教員に求められる資質・能力を総合的に点検し、不足部分を補完しながら、自己理解と実践を通じて教員力を深化させる。 到達目標： 教員として求められる四つの資質・能力（①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性・対人関係能力、③生徒理解と学級経営能力、④教科等の指導力）について、4年前期までに学部授業や教育実習等を通して習得してきた知識・技能・姿勢を確認・点検し、不足している部分を補完・向上させ、教員に必要な資質と能力を有機的に統合形成させることができる。					
<b>授業の概要</b> オリエンテーションで本授業の目的と授業全体の概要を説明し、教員に必要な資質と能力の到達度チェックリストを実施する。本授業は演習A（求められる教師像）、演習B（生徒理解と学級経営）、演習C（教科等の指導）で構成し、4年前期までに学修したことを振り返り、そこから課題を見つけて、その課題を解決するために事例研究・グループ学習・ロールプレイ・授業参観等を行い、教師に必要な知識・技能・態度のより豊かな習得を図る。					
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション（「教職実践演習」の説明と自己点検カルテの活用） 第2回：求められる教師像（自らのこれまでの体験を振り返って考える） 第3回：大村はま『教えるということ』等、優れた実践者の著書や実例などから学ぶ 第4回：生徒理解と学級経営その1 教育実習を振り返って学級経営の課題を明らかにする 第5回：生徒理解と学級経営その2 生徒理解の視点と方法について学習する 第6回：生徒理解と学級経営その3 学級担任の仕事と資質について 第7回：生徒理解と学級経営その4 「学級崩壊」の原因と対策を考える 第8回：教科等の指導その1 教育実習における授業を振り返って課題を明らかにする 第9回：教科等の指導その2 教材研究と授業計画の作成について 第10回：教科等の指導その3 視聴覚教材を活用した授業研究について 第11回：教科等の指導その4 模擬授業と相互評価について 第12回：フィールドワークその1 「とくしま高校生産フェス」への参加（11月下旬土曜日）					

<p>) について</p> <p>第13回：フィールドワークその2 「とくしま共に生きるフェスタ」への参加（11月）について</p> <p>第14回：フィールドワークその3 学校現場への訪問について</p> <p>第15回：本授業のまとめと学修成果の確認</p>
<p>テキスト</p> <p>中・高等学校学習指導要領解説書（総則編、各教科、道徳・特別活動、総合的な学習の時間）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜提示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加姿勢（フィールドワーク、グループ活動、発表状況）、レポート、学生の自己点検カルテなどから総合的に評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。